

一般社団法人日本人間工学会 2020 年定時社員総会資料

- I. 2019 年度事業報告
- II. 2019 年度収支決算（案）
- III. 2020 年度事業計画（案）
- IV. 2020 年度収支予算（案）
- V. 第 7 期代議員及び役員選挙報告
- VI. 定款の変更（案）
- VII. 名誉会員推薦
- VIII. 人間工学研究のための倫理指針の改訂

一般社団法人日本人間工学会
Japan Human Factors and Ergonomics Society (JES)

2020 年 6 月 13 日

I. 2019年度事業報告

1. 会勢報告

{総務担当:石橋 基範、中西 美和}

【総 数】

(単位:人)

会 員	2019年4月1日	2020年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減
		1,368	1,337	52	83

会員資格
変更

正会員:	1,276	1,252	43	68	-25	1
準会員:	92	85	9	15	-6	-1

【内 訳】

(単位:人)

支 部	2019年4月1日	2020年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減 ():支部間 の移動
北 海 道	32	29	1	4	-3(0)
東 北	50	45	1	5	-4(-1)
関 東	748	731	23	42	-19(+2)
東 海	122	126	12	7	+5(-1)
関 西	243	238	10	16	-6(+1)
中国・四国	99	98	4	4	0(-1)
九州・沖縄	67	65	1	4	-3(+1)
国 外	7	5	0	1	-1(-1)
賛 助 会 員	27社28口	27社28口	0社0社	0社0口	0社0口

2. 事業報告

{総務担当：石橋 基範、中西 美和}

2019年度は、一般社団法人日本人間工学会第6期（2018年6月～2020年6月）の2年目として、学会の活性化や会員向けサービスの充実に向けた取り組みを継続した。若手支援委員会では縦（世代間）のつながりの強化を、企業活動推進委員会では横（産業界）のつながりの強化を図った。また、学会改革・戦略委員会が中心となって学会内で横断的に、学会の活性化に向けたアクションプラン実装策検討等を推進した。

- (1) 2019年定時社員総会を2019年6月15日に日本大学理工学部において開催し、2018年度事業報告・収支決算、2019年度事業計画・収支予算等について審議し、決定した。
- (2) 第60回大会を青木和夫大会長のもと2019年6月15日(土)～16日(日)に日本大学理工学部で開催した。
- (3) 機関誌「人間工学」の第55巻2～6号及び第56巻1号の計6冊を発行した。
- (4) 理事会を2019年5月10日、6月14日、9月30日、2020年2月17日の計4回開催した。
- (5) 2019年度論文賞（1件）、研究奨励賞（1件）、グッドプラクティス優秀賞（1件）の表彰を行った。
- (6) 人間工学専門家認定機構において、各種の専門家資格の試験を実施した結果、認定試験(A方式試験)合格者3名、準専門家合格者24名、アシスタント4名を新たに得た。その結果、2019年度末現在の認定人間工学専門家は214名、準専門家144名、アシスタント12名、シニアCPE13名となった。このほか、定期総会、講演会、シンポジウムを開催し、会報を4回発行した。
- (7) 以下の常設委員会・担当及び臨時委員会・担当において各事業を積極的に進めた。
 - 7-1) 広報委員会
ホームページでの情報発信、ニュースレターを中心に広報活動を推進することによって人間工学の普及に努めた。支部大会の講演集を収集し、公開する準備を開始した。
 - 7-2) 編集委員会
学会誌の定期発行と内容の充実に努めた。編集委員会は対面、電子合わせて12回開催した。本年度は、投稿42編(原著論文31編、リサーチ・イシュー1編、短報5編、実践報告2編、オープンデータ3編)を受け付けた。採否が判定した投稿論文は30編(採択12編、不採択14編、取り下げ4件、採択率40.0%)であった。
 - 7-3) 国際協力委員会
IEA評議会(2019. 8. 23-24@デンマーク・ヘルシンゲル)、ACED評議会(2019. 11. 6-7@インド・ジャランダル)等、国際協力関連会議に委員長初め各委員が出席した。また、IEAとの連絡の窓口となり、JESの情報をIEAに展開するとともにIEAの情報をJESに展開した。
 - 7-4) ISO/TC159国内対策委員会
DIS等の規格原案に関する計40件の投票を行うとともに、国内委員会を開催し(全体会議3回、分科会25回)審議を行った。また、国際会議出席(20回、のべ47名出席)などによって5件の新ISO規格の発行に寄与した。
 - 7-5) 表彰委員会
表彰選考等に関する広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、人間工学専門家認定機構等と連携し、公正かつ効率的な業務運営のもと、2019年度各賞受賞者に対する授与式を行った。2020年度各賞の選考を行うとともに、表彰の準備を進めた。国際協力委員会とともに、IEAに表彰候補者の推薦等を行った。
 - 7-6) 安全人間工学委員会
他学会とのシンポジウム共催、安全工学シンポジウム2019でのOSの企画・運営を実施した。
 - 7-7) 学術担当
日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローした。
 - 7-8) 企画担当
全国大会において、複数の委員会による学生や若手を対象とした共同企画を行った。また、他の研究部会との共催企画を計画していたが、新型コロナウイルスの影響によりいずれも実現には至らなかった。
 - 7-9) 若手支援委員会
若手会員(20代学部生・大学院生中心)が研究やキャリア形成を支援することを目的とした活動(学生交流力

フェの開催)を行った。

7-10) 企業活動推進委員会

委員会メンバー、オブザーバーで構成されるメーリングリストを立ち上げた。全国大会に向けて「人間工学は品質向上に寄与できているか？」シンポを企画した。

7-11) 学会改革・戦略委員会

多様化する社会ニーズと学術ニーズへ即応する教育基盤整備のために、エルゴノミクソン・プログラム(人間工学版ハッカソンプロジェクトとして、人間工学の設計手法・課題解決手法を学ぶプログラム)の試行を行った。また、各委員会・部会等と連携し、新型コロナウイルス(COVID-19)への人間工学対応のアクションプランを提案、JESとしての活動を推進した。

7-12) 人間工学研究のための倫理指針検討委員会

「人を対象とする人間工学研究のための倫理指針」の改訂案を作成し、2020年定時社員総会での審議準備を完了した。また、教育・啓発活動を行うために、第60回大会で委員会企画シンポジウムを開催した。さらに、第61回大会で改訂概要や実践編、企業での実践状況を紹介するシンポジウムを企画・提案した。

7-13) 子どものICT活用委員会

子どものICT機器活用に関する人間工学課題について情報交換するとともに、検討内容を情報発信している委員会のウェブサイトの活用について議論した。また、学術雑誌などを通して、委員会活動を紹介した。

7-14) IEA担当

IEA前会長として会長・副会長の補佐、担当臨時委員会の運営、表彰委員長として新表彰の導入および2019年度表彰の選考業務にあたった。また、IEAウェブサイトの運営業務にも従事した。

7-15) 第60回大会担当

第60回大会(青木和夫大会長・日本大学理工学部)を6月15日(土)～16日(日)に日本大学理工学部(東京都千代田区)にて開催した。特別講演やパネルディスカッションを中心に、一般企画シンポジウム(12件)、一般発表(104件)、懇親会等を行った。

(8) 支部、部会

北海道、東北、関東、東海、関西、中国・四国、九州・沖縄の計7支部と、ビッグデータ人間工学研究部会、安全人間工学研究部会、PIE研究部会、衣服人間工学部会、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、海事人間工学研究部会、ワーク・アーゴノミクス研究部会、自動車人間工学研究部会、システム大会部会の計11研究部会が、多彩な活動を行った。

(9) 関連学術団体等の共催・協賛・記事掲載等を行った。

(10) 学会事務局では、JENC事務局業務、編集業務の担当など管理業務の見直しを行い一層の効率化と経費節減を図った。また、経費削減のため事務局事務所の移転の検討に着手した。さらに、学会誌や大会講演集のJ-STAGEへの公開を進め、学会HPおよびJESニューズレターの配信により迅速な情報提供に努めた。

3. 委員会・担当活動

[常設委員会・担当]

3-1. 広報委員会

{委員長：松田 文子、副委員長：齋藤 祐太}

- (1) 理事会、支部、委員会、研究部会、事務局などと連携・協力のもと、ホームページ、JES ニュースレターを中心に広報活動を推進することによって人間工学の普及に努めた。重要ニュースのお知らせ、学会主催／協賛等のイベント案内等をホームページにて情報発信した。
- (2) 「人間工学の総合データベース (ERGO Directory)」の取り組みを継続し、人間工学の社会への普及に努めるとともに、登録者数増加に向けた戦略を検討した。
- (3) グッドプラクティスデータベース (GPDB) の取り組みを継続し、開設 10 周年の記念企画を実施した。
- (4) HP のスペシャルコンテンツ「ピックアップがんばる人間工学家！」の企画・運営を引き続き行った。
- (5) Facebook の有効活用を検討した。
- (6) グッドプラクティスデータベース (GPDB) の取り組みを継続するとともに、掲載事例の増加対策を検討した。
- (7) COVID-19 対応に取り組むグッドプラクティスを発信するための仕組みを検討した。

3-2. 編集委員会

{委員長：赤松 幹之、副委員長：村木 里志}

(1) 会誌「人間工学」の編集・発行

- | | |
|----------------------------------|----------------------------|
| 1) 2019年04月：第55巻2号 (pp. 25-66) | ：実践報告1編、原著論文3編 他 |
| 2) 2019年06月：第55巻3号 (pp. 67-118) | ：原著論文3編 他 |
| 3) 2019年08月：第55巻4号 (pp. 119-162) | ：原著論文4編 他 |
| 4) 2019年10月：第55巻5号 (pp. 163-232) | ：実践報告2編、オープンデータ1編、原著論文3編 他 |
| 5) 2019年12月：第55巻6号 (pp. 233-268) | ：実践報告1編、原著論文2編、短報1編 他 |
| 6) 2020年02月：第56巻1号 (pp. 1-48) | ：オープンデータ1編、原著論文2編、短報1編 他 |

(2) 学会誌の投稿規程と執筆要項の改定

学術コミュニティにおける昨今の二重投稿に関する懸念を踏まえ、既発表の原稿等の区別を明確にするため、人間工学誌における当該原稿の取り扱いを追記したことに伴い、投稿規程を改定した。さらに、原稿のわかりやすさを向上させるために執筆要項を改定した。

(3) 論文投稿補助制度の創設

論文投稿時の著者の質問および論文投稿までの支援を目的とし、2019年度から論文投稿補助制度を創設し、運用を開始した。本制度の学会員への周知を図るため、日本人間工学会第60回大会にてパンフレットでの周知および学会ホームページにて紹介を行った。

(4) クイック・レビュー(QR)制度

論文投稿の推進と投稿者の利便性を高めるため、大会と連動したクイック・レビュー制度を実践し、一定の成果を得た。QR制度の仮登録者は18名、本登録者は11名、論文投稿者は6名(採択2件、不採択3件、取り下げ1件)であった。

(5) 編集委員会

対面委員会とメーリングリストによる電子編集委員会を隔月ごとに計12回開催した。対面委員会のうち2回は全体会議(6月東京、12月東京)、4回は複数拠点を結んだweb会議(2月東京、4月東京、8月東京・福岡、10月東京)とした。いずれも、個人単位のweb参加も可能とし、委員の利便性向上と委員会の活性化に寄与した。

(6) 投稿論文数・採択率・査読期間

前年度に引き続き、採録率や査読期間に関する情報をホームページに掲載した。

2019年度に受け付けた投稿論文は、通常投稿が36編（原著論文26編、総説0編、リサーチ・イシュー1編、短報5編、実践報告1編、技術報告0編、オープンデータ3編）、QR制度投稿論文が6編（原著論文5編、実践報告1編）であり、総数は42編（原著論文31編、総説0編、リサーチ・イシュー1編、短報5編、実践報告2編、技術報告0編、オープンデータ3編）であった。2019年度に採否が判定した投稿論文は通常投稿が24編（採択10編、不採択11編、取り下げ3件、採択率41.7%）、QR制度投稿論文が6編（採択2編、不採択3編、取り下げ1編、採択率33.3%）であり、全体では30編（採択12編、不採択14編、取り下げ4件、採択率40.0%）であった。2019年度中に決定した査読者の延べ人数は108名（うち非会員者8名）であった。また、2019年度に判定が確定した論文の平均査読期間（全投稿区分の投稿受付日から最終判定日までの日数）は、通常投稿が113.8日（採択117.0日、不採択111.2日）、QR制度投稿論文が103日であり、全体では111.6日であった。

(7) その他、編集委員会所掌業務に対応した。

3-3. 国際協力委員会

{委員長：鳥居塚 崇、副委員長：小谷 賢太郎}

(1) 委員会開催

MLによる委員会の開催、そのほか関連事項について緊密な連絡を実施

(2) 理事会審議・報告

IEA 評議会 Helsingør 開催報告と IEA 関連の国際表彰について、IEA フェロー申請と推薦候補の検討についての審議、ACED 評議会 Jalandhar 報告など

(3) 国際交流

・ IEA 評議会 (Helsingør, 8月23-24日) への参加

鳥居塚委員長、小谷副委員長、および藤田前 IEA 会長、河合 IEA ICT 委員長が出席し、EC メンバー報告、International Development Committee 報告、Professional Standards and Education, Science, Technology and Practice Committee などからの報告、Historian report, IEA60 周年記念イベント、Liberty Mutual Medal の受賞者報告などが行われた。

・ 国際表彰対応（提出資料の準備、表彰委員会との連携、IEA Award Committee との事務対応）

・ 鳥居塚委員が IEA Auditor として協力することとなった

・ ACED 評議会 (Jalandhar, 11月6-7日)

(4) JES-ESK ジョイントシンポジウムの企画および開催（東京、5月11-12日）

3-4. ISO/TC159国内対策委員会

{委員長：佐藤 洋、副委員長：横井 孝志}

(1) 委員会開催、国際会議出席状況

・ 国内委員会: 全体会議3回、分科会25回（メール審議含む）

・ 国際会議出席状況: 20回の国際会議に延べ47名出席（ネット会議を含む）

(2) 発行規格、投票

〈新 ISO 規格〉: 5件

・ ISO 10551:2019 Ergonomics of the physical environment – Subjective judgement scales for assessing physical environments

・ ISO 24509:2019 Ergonomics – Accessible design – A method for estimating minimum legible font size for people at any age

・ ISO 24550:2019 Ergonomics – Accessible design – Indicator lights on consumer products

・ ISO 24551:2019 Ergonomics – Accessible design – Spoken instructions of consumer products

・ ISO 24552:2020 Ergonomics – Accessible design – Accessibility of information presented on visual

displays of small consumer products

〈投票〉: NP:4件、CD:5件、DIS:6件、FDIS:6件、SR:5件、CIB:8件、DTR:4件、DTS:2件

(3) 分科会活動 (メール審議含む)

- | | | |
|--------------------------------------|----------|------------|
| ・SC1(人間工学の一般原則)&WG | 主査: 青木和夫 | 分科会 3 回開催 |
| ・SC3(人体寸法と生体力学) &WG | 主査: 榎原毅 | 分科会 0 回開催 |
| (個別案件について案件関係者のみでメール審議し、分科会としては開催せず) | | |
| ・SC4(人間とシステムのインタラクション) &WG&SG | 主査: 福住伸一 | 分科会 18 回開催 |
| ・SC5(物理的環境の人間工学) &WG&SG | 主査: 齊藤宏之 | 分科会 2 回開催 |
| ・アクセシブルデザイン関連会議 | 主査: 青木和夫 | 分科会 2 回開催 |

3-5. 表彰委員会

{委員長: 堀江 良典、副委員長: 水野 有希}

- (1) 表彰選考等に関する広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、人間工学専門家認定機構等と連携し、公正な業務運営を行った。
- (2) 2019 年定時社員総会において功労賞、論文賞、研究奨励賞、人間工学グッドプラクティス賞の授与式を行った。
- (3) 関西支部大会、関東支部大会において、優秀研究発表奨励賞の授与を行った。
- (4) 功労賞、論文賞、研究奨励賞、人間工学グッドプラクティス賞候補の選考を行うとともに、表彰の準備を行った。
- (5) 国際協力委員会とともに、IEA に表彰候補者の推薦等を行った。
- (6) 表彰委員会ウェブサイトの整備・拡充を行い、JES ホームページにおける表彰関係情報の整合を図った。

3-6. 安全人間工学委員会

{委員長: 首藤 由紀、副委員長: 鳥居塚 崇}

- (1) 青木 (日大)・北村 (鉄道総合技術研究所)・酒井 (労働科学研究所)・佐相 (電力中央研究所)・首藤 (社会安全研究所)・鳥居塚 (日本大学)・中西 (慶應義塾大)・芳賀 (社会安全研究所)・山出 (社会安全研究所)・吉村 (海上技術安全研究所) の 10 人の委員で活動した。
- (2) 日本原子力学会社会・環境部会ほかとともに第 20 回「安全・安心のための管理技術と社会環境ワークショップ 安全に寄与する組織文化の核心とは—リーダーシップ・マネジメントの視点から—」を主催した。(令和元年 6 月 21 日 (土)、筑波大学東京キャンパス文京校舎)
- (3) 日本学術会議安全工学シンポジウム 2019 の実行委員に佐相委員が就任し、「効果的な警告音とは何か」をテーマとしたオーガナイズド・セッションを企画・運営した。
- (4) 産業・組織心理学会第 133 回部門別研究会「ノンテクニカル・スキル/レジリエンス・スキルの教育訓練」を共催した (令和元年 5 月 25 日 (土)、日本大学経済学部)。

3-7. 学術担当

{担当: 横井 郁子、青木 和夫}

学術担当として、日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合 (横幹連合)、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローした。

横幹連合へ学会推薦理事として参画した (横井理事)。

3-8. 企画担当

{担当: 岡田 明、三坂昇司}

- (1) 第60回全国大会 (@日本大学理工学部) において、学会改革戦略・若手支援・企業活動推進・広報・国際協力の各委員会との共同企画の形で「ErgonomicThon：人間工学のオープンイノベーション手法を学ぶ」(開催日：2019年6月15日)を開催した。
- (2) 若手研究者・学生・企業研究者をサポートし、より魅力的な企画を策定するため、同じ方向の活動を活発に行っている以下の研究部会との共催企画を計画した。しかし、新型コロナウイルスの影響によりいずれも実現には至らなかった。機会があれば再度実施を検討したい。
- ①ビッグデータ人間工学研究部会との共催：第2回ビッグデータ人間工学講演会○KH CoderとExcelを使ったテキストマイニングの実践 ○人とICTが共創する産業用IoTとデジタル変革、2020年3月12日開催@芝浦工業大学
- ②アーゴデザイン部会との共催：(第61回全国大会でのシンポジウムを計画段階で取り止め)

3-9. 人間工学専門家認定機構

{機構長：福住 伸一、副機構長：鳥居塚 崇}

- (1) 会員状況 (2020年3月31日現在)
- 人間工学専門家 214名 (2019年度 資格取得者3名、退会者6名)
- 人間工学準専門家 144名 (2019年度 資格取得者25名、退会者3名[内1名は専門家へ登録])
- 人間工学アシスタント 9名 (2019年度 資格取得者2名、退会者5名)
- シニア認定人間工学専門家 13名 (2019年度 取得者 5名)
- (2) 資格認定試験及び審査実施状況
- 資格認定試験 (A方式試験) を1回実施 (東京、大阪同時開催)。受験3名、合格3名。
- 準専門家：応募24名、書類審査に24名合格、アシスタント：応募4名、書類審査に4名合格
- (3) 定期総会・講演会の開催
- 講演会 2019年4月17日(水) 15:00~17:00
- 講演1：福岡曜 (アバナード株式会社)
- 「人間工学的アプローチによるユーザーリサーチ・リテラシー普及に向けて」
- 講演2：易強 (静岡工業技術研究所) 「公設試験研究機関における人間工学による企業の製品開発支援」
- 総会 2019年4月17日(火) 17:00~17:30 (総会后、交流会を開催) 出席者：34名、委任状：109名
- (4) 幹事会の開催
- 第42回 日時：2019年9月10日(火) 15:00~17:25 場所：理化学研究所
- 第43回 日時：2020年3月16日(月) 12:30~14:30 ネット会議 (zoom)
- (5) 再認定の実施
- 人間工学専門家20名、人間工学準専門家13名、人間工学アシスタント1名の再認定手続きが完了した。
 - CPEシニアに5名が移行した。
- (6) シンポジウム、機構紹介の実施
- 日本人間工学会第60回大会 (2019/6/15、東京都) シンポジウム「未来を切り開く～機構の方向性と活動紹介、資格取得の必要性と展望～」
 - 各支部大会でのPR講演実施
- 東海支部大会 (11/2)、北海道支部大会 (11/9)、九州・沖縄支部大会 (11/16)、関西支部大会 (12/14)、中国・四国支部大会 (12/8)、関東支部大会 (12/7-8)
- (7) イベントの開催
- CPEサロン (交流会) の開催：新型コロナウイルスの影響で開催延期
- 日時：2020年3月16日(月) 15:30~17:50 会場：芝浦工業大学芝浦キャンパス
- CPEセミナーは諸般の事情により開催見送り
- (8) 準専門家ポスターの配布
- 2018年度に作成した準専門家ポスターを関連大学等へ送付した。
- (9) 会報作成
- 会報を4回(第59~62号)発行した。また、会報Web版と英語版 (March 2020) を発行した。
- (10) 人間工学グッドプラクティス (GP) 賞
- 表彰委員会と協力し、認定人間工学専門家による一次審査を実施し、6月のJES第60回大会にて第8回の表彰を

行った。

[臨時委員会・担当]

3-10. 若手支援委員会

{委員長：申 紅仙、副委員長：加藤 麻樹}

若手会員（20代学部生・大学院生中心）の研究やキャリア形成を支援することを目的とした活動（学生交流カフェの開催）を行った。60回大会では、学会改革・戦略委員会とのコラボレーション企画「Ergonomicthon+学生交流（ランチョン）ミーティング」を開催した。初の試みとして大会総会同時刻に開催し学生からは好評を博した。また、関東支部大会では「学生交流カフェⅣ～とおきの就活トリセツありませんか～」を開催し、学生に面接者側としてロールプレイを行った。

3-11. 企業活動推進委員会

{委員長：易 強、副委員長：善方 日出夫、下村 義弘}

(1) 委員会用メーリングリストの立ち上げ

委員会メンバー（8名）、オブザーバー（10名）で構成されるメーリングリストを立ち上げた。

(2) 企業における人間工学活動を推進するためにアンケート調査

企業活動推進にあたり、委員会メンバーに5項目からなる簡単なアンケートを実施した。企業とアカデミックそれぞれの立場から見た人間工学に対するイメージや、それぞれの立場への期待について、定性的に比較を行った。

(3) 学会員に占める企業所属会員の割合のトレンド変化を調査

最近10年学会会員のうち企業に所属する割合が近年低下してきている（41%→39%）ことがわかった。

(4) 第60回全国大会にライトニングトークを含むシンポを企画

人間工学の分野に拘らず、企業の現場で発生した事案に関する事例報告、調査のまとめ、日頃抱える疑問をまとめて問題提起し、解決策の呼びかけ、面白い社会現象の紹介、蓄積したデータの見方の検討、共同研究や製品開発に実践した人間工学活動の裏話（失敗事例も含む）など6件、学会初の1演題5分のライトニングトークセッションを含むシンポ「企業における人間工学活動氷山の一角」を企画した。

3-12. 学会改革・戦略委員会

{委員長：榎原 毅、副委員長：山田クリス孝介}

(1) 多様化する社会ニーズと学術ニーズへ即応する教育基盤整備のために、エルゴノミクソン・プログラム（人間工学版ハッカソンプロジェクトとして、人間工学の設計手法・課題解決手法を学ぶプログラム）の試行を行い、プログラムの精緻化をはかった（詳細は下記）。

① 「ErgonomicThon：人間工学のオープンイノベーション手法を学ぶ」（2019/6/15、於：JES第60回大会、主催：学会改革・戦略、若手支援、共催：広報、企業活動推進、国際協力、企画担当理事）

② 「ErgonomicThonワークショップー働き方をデザインするー」（2019/11/12、於：日本大学生産工学部）

③ 「ErgonomicThon：産業安全保健活動に役立つ人間工学ナッジを学ぼうー行動変容を促す理論と実践ワークショップー（2019年度 東海産業衛生技術部会特別企画）」（2019/12/21、於：イールーム名古屋駅前、主催：日本産業衛生学会・東海産業衛生技術部会、共催：学会改革・戦略）

これらの開催報告は学会誌へ寄稿した（①人間工学、55(5):224-227、2019、②人間工学、56(2):84-87、2020、③人間工学、56(2):79-83、2020）。

(2) 広報委員会より引き継いだヴァーチャル・ミュージアム事業の実装方法を検討した。デジタルアーカイブに関して豊富な実績を持つ企業担当者と面会し、アーカイブの方法（利用可能な既存データベース）および事例収集のための実益あるイベント企画に関する助言を頂き、意見交換を行った。

- (3) 学会活動活性化のためのアクションプラン1「JESポイント制度」の実装に向け、学会事務局・広報委員会（学会web サイト）・編集委員会（査読システム）・CPE（CPE ウェブサイト）をはじめ、各種委員会等と連携して新たなウェブシステム開発・管理業者を選定する必要性を理事会で提案した。
- (4) 各委員会・部会等と連携し、新型コロナウイルス(COVID-19)への人間工学対応のアクションプランを提案、JESとしての活動を推進した（主な取り組みは下記、活動内容は2020/5まで記載）。
 - ① 正副理事長、総務・財務・編集・広報・国際・CPE各理事へ学会改革委員長よりCOVID-19への対応を提案(3/11)
 - ② COVID-19に対する教育機関における人間工学対応状況の調査（第一回）の実施（回答期間：2020/3/16～20、速報結果のweb公表：3/25、総務・財務・広報・JES事務局との連携）
 - ③ IEAへJESのCOVID-19への取り組み（アクションプラン）を発信（3/16、国際協力・IEA担当との連携）
 - ④ COVID-19に対する教育機関における人間工学対応状況の調査（第二回）の実施（回答期間：2020/3/26～4/1、総務・財務・広報・JES事務局との連携）
 - ⑤ 社会発信コメントの発信（3/27、JESウェブサイト掲載、副理事長）
 - ⑥ 科学コミュニケーション部会設立要望書の提出（4/3）
 - ⑦ 人間工学グッドプラクティスデータベース・COVID-19対応特別編の設置と良好事例の募集の開始（4/22、広報）
 - ⑧ COVID-19対策として在宅ワーク／在宅学習の増加に伴う人間工学対応として、Seven Practical Human Factors and Ergonomics (HF/E) Tips for Teleworking/Home-learning using Tablet/Smartphone Devices を作成、JES成果物としてIEAへ発信（4/25理事会承認・IEAへ展開、各委員会との連携）
 - ⑨ 上記⑧の成果物の翻訳版（タブレット・スマートフォンなどを用いて在宅ワーク/在宅学習を行う際に実践したい7つの人間工学ヒント）を作成（4/29理事会承認、各委員会との連携）

3-13. 倫理指針検討委員会

{委員長:石橋 基範、副委員長:榎原 毅}

- (1) 「人を対象とする人間工学研究のための倫理指針」の改訂案を理事会へ提案して意見収集・審議を行うとともに、会員や認定人間工学専門家等の学会関係者より改訂案に対するコメント収集を実施した。これらの検討を経て、2020年定時社員総会で改訂案を審議する準備を完了した。
- (2) 教育・啓発活動の一環として、第60回大会で委員会企画シンポジウムを開催した。話題提供は以下の2題。石橋他：人間工学会における「人間工学研究のための倫理」に関する意識調査、榎原：人を対象とする研究倫理の現状。第61回大会で改訂概要や実践編、企業での実践状況を紹介するシンポジウムを企画・提案した。また、近隣領域の学会としてヒューマンインタフェース学会と連携し、相互の大会企画において意見交換を行った。

3-14. 子どものICT活用委員会

{委員長:柴田 隆史、副委員長:岡田 衛}

- (1) 学校において安全で快適にICT機器を利用できるように、児童生徒や学校関係者に分かりやすく、そして実用的なガイドラインの作成を検討してきた。これまでに委員会のウェブサイトを作成し、学校でのICT機器利用において安全面や健康面の配慮をした方がよい点をまとめ、情報公開している。
- (2) 文部科学省によるGIGAスクール構想などを背景とし、児童生徒がICT機器を利用する機会がますます増えることを踏まえ、委員会ウェブサイトの活用や社会への貢献について議論した。
- (3) 委員会の取り組みを、日本眼光学学会が発行する「視覚の科学」において紹介した。「学校でのICT活用の現状と近視予防」、視覚の科学、日本眼光学学会 40(4), pp.79-84, 2019
- (4) 上記の他にも本委員会の活動を広く周知させることに努め、柴田委員が所属大学で開講した教員免許状更新講習において、教員免許状を有する学校教員に対して、本委員会の活動や人間工学的視点について紹介した。

3-15. IEA 担当

{担当:藤田 祐志、河合 隆史}

- (1) IEA 前会長として会長・副会長の補佐、担当臨時委員会の運営、表彰委員会長として新表彰の導入および 2019 年度表彰の選考業務にあたった。(藤田祐志)
- (2) IEA ウェブサイトの運用業務、および次期 IEA ウェブサイトの開発支援業務にあたった。次期ウェブサイトは 2020 年 4 月から運用される。(河合隆史)

3-16. 選挙管理委員会

{委員長: 松田文子}

- (1) 前回選挙に引き続き、第 7 期代議員選挙を電子投票システム (i-Vote) にて実施した。
- (2) 第 7 期選挙管理委員会 (全 8 名) を組織した。
- (3) 代議員選挙では、2019 年 10 月 18 日に選挙案内の葉書を発送するとともに投票サイトをオープンし、11 月 12 日 23:59 に締め切った。開票、諾否確認の結果、第 7 期代議員 133 名が確定した。
- (4) 役員選挙については従来通り郵送 (投票用紙方式) による投票を実施した。
- (5) 役員選挙では、2020 年 1 月 24 日に役員候補者推薦委員会より候補者の連絡があったことを受け、準備を経て、同 2 月 4 日に役員選挙案内を有権者 (第 7 期代議員) に発送した。投票期限は同 2 月 27 日 (必着) とした。開票の結果、役員候補者推薦委員会からの候補者全員の当選が確定し、3 月 3 日に候補者へ通知した。
- (6) これらの選挙経過および選挙結果を、第 50 回理事会 (2020 年 2 月 17 日)、第 51 回理事会 (5 月 8 日) で報告した。

3-17. 役員候補者推薦委員会

{委員長: 藤田 祐志}

役員候補者推薦委員会内規に基づき、以下のように役員候補者の推薦を行った。

- (1) 推薦委員会委員による理事長候補者の推薦 (メール審議)
- (2) 理事長候補者本人の承諾
- (3) 推薦委員会 (2020 年 1 月 11 日) において、理事・監事候補者を推薦
- (4) 理事・監事候補者本人の承諾
- (5) 候補者の略歴等の作成依頼と内容の確認 (必要に応じて修正)
- (6) 候補者略歴の選挙管理委員会への送付

3-18. 第 60 回大会担当

{担当: 青木 和夫}

2019 年 6 月 15 日 (土) ~ 16 日 (日)、日本人間工学会第 60 回大会を日本大学理工学部 (東京都千代田区) にて開催した。参加者数は、名誉会員 1 名、正会員 240 名、準会員 28 名、非会員 (一般) 109 名、非会員 (学生) 62 名、賛助会員 26 名、日韓ジョイントシンポジウム 23 名の合計 503 名だった。

大会の主要テーマは、「社会に役立つ人間工学」と設定した。本学会が設立された 1964 年には東京でオリンピックが開催され、くしくも 2020 年には東京オリンピックが開催される予定であり、オリンピックに関連したパネルディスカッションを企画した。

- (1) 特別講演 「学部長は何を考えているのか?—建築構造デザインの世界とリーダー・エンジニアの育成—」
日本大学理工学部長・岡田章氏 (司会: 大会長・青木和夫)
- (2) パネルディスカッション 「スポーツを支える科学」 (司会: 国立スポーツ科学センター・尾崎宏樹氏)
 - ・ハイパフォーマンススポーツにおけるスポーツ科学の役割 国立スポーツ科学センター・窪康之氏
 - ・スポーツにおける暑熱対策 国立スポーツ科学センター・中村 真理子氏, 株式会社ウェザーニューズ, 立教大学・中村大輔氏
 - ・トップ選手を支えるテクノロジー 国立スポーツ科学センター・稲葉優希氏

- (3)一般企画シンポジウム 12件
- (4)一般企画ワークショップ 3件
- (5)一般演題 104件
- (6)日韓合同シンポジウム 20件
- (7)懇親会

場所：日本大学理工学部駿河台1号館（東京都千代田区）

日時：6月15日（土）18：30～20：00 参加者112名

4. 支部活動

4-1. 北海道支部

{支部長：平沢 尚毅}

(1) 支部役員会

1) 定例役員会

日時：2019年8月8日（木）16：00～18：00

場所：小樽商科大学札幌サテライト

議題 2018年度北海道支部事業報告、2018年度決算案並びに監査報告、2019年度北海道支部事業計画
2019年度北海道支部予算執行計画、2019年度北海道支部大会及び総会の予定
2020年度北海道支部大会及び総会の計画、その他

(2) 2019年度北海道支部総会並びに大会

大会長：吉成 哲（室蘭工業大学）

日時：2019年11月9日（土）12：00～

場所：小樽商科大学105教室

1) 支部総会議題

議題 2018年度北海道支部事業報告、2018年度決算案並びに監査報告、2019年度北海道支部事業計画
2019年度北海道支部予算執行計画、2020年度北海道支部大会及び総会の計画、その他

2) 支部大会

13:00～13:05 開会の辞 大会長：吉成 哲（室蘭工業大学）

13:05～15:05 一般演題 座長：吉成 哲（室蘭工業大学）

1. 認定人間工学専門家の紹介ー目指すビジョンと施策ー / 福住伸一（理化学研究所/CPEJ機構長）、鳥居塚崇（日本大学/CPEJ副機構長）、八木佳子（株式会社イーキ/CPEJビジョン検討WGリーダー）
2. 災害復興作業の負担軽減に資する作業用具の提案ー生体情報計測による試作スコープの評価ー / 前田大輔、泉巖（北海道立総合研究機構）、吉成哲、藤木裕行、柴田義光（室蘭工業大学）
3. 背貼り袋の開封性に対する人間工学的検討 / 古川優花、小林大二（公立千歳科学技術大学）
4. 精神課題遂行時の生理反応特異性ー感覚取入型課題遂行時の心拍低下ー / 三宅晋司、黒坂知絵、倉岡宏幸（産業医科大学産業保健学部）
5. 心拍変動解析を利用した心的状態の推定 / 泉巖、前田大輔、中島康博（北海道立総合研究機構）
6. 仮想現実環境でのタスクに生じる習熟に関する検討 / 二階堂諒、小林大二（公立千歳科学技術大学）
7. 仮想現実環境のもとでのタスクに対する人間工学的評価 / 伊藤好輝、小林大二（公立千歳科学技術大学）
8. 介護予防におけるIoTの利活用に関する研究ー3Dプリンタを活用した知覚入力型ヒールカップの作成を例としてー / 山瀬甲人（社会福祉法人 湊仁会）、永野晴基、千里政文（北翔大学大学院）
9. 音声アシスタントのアクセシビリティに関する実験 / 菅野百佳、小林大二（公立千歳科学技術大学）
10. 観光客を地元の店へ誘うための情報環境の構築に関する考察 / 船木雪乃、平沢尚毅（小樽商科大学）

15:05～15:15 休憩

15:15～16:50 基調講演『産業保健人間工学と筋骨格系障害に関する研究動向』

榎原 毅（名古屋市立大学医学部）

16:50～17:00 閉会の辞 大会長：吉成 哲（室蘭工業大学）

【懇親会】

18:00～ 寿司居酒屋『魚真』

4-2. 東北支部

{支部長：大橋 智樹}

(1) 支部役員会

1) 第1回役員会：

- ・日時：2019 12月14日(土)13:00～14:00
- ・場所：山形テルサ(山形駅西口すぐ)研修室 A(3階)
- ・議題：支部活動についての意見交換および第2回支部研究会の開催について

2) 第2回役員会：

- ・日時：2020年2月15日(土)13:00～14:00
- ・場所：東北大学青葉山キャンパス 総合研究棟1F 110号室
- ・議題：支部活動についての意見交換および第3回支部研究会の開催について

3) 第3回役員会(新型コロナウイルス感染症により中止)

- ・日時：2020年3月14日(土)13:30～14:30
- ・場所：東北大学青葉山キャンパス 総合研究棟1F 110号室

(2) 支部研究会

1) 第1回研究会：

- ・テーマ：ものづくり現場における人間工学 Part IV
- ・企画：本多薫(山形大学)、山口俊憲(山形産業技術短大)
- ・日時：2019年12月14日(土)14:00～17:00
- ・場所：山形テルサ(山形駅西口すぐ)研修室 A(3階)
- ・趣旨：今回の研究会では、製造業においてどのように改善活動が取り組まれているか、そしてその取り組みが働きやすさにどう貢献しているか、また、企業外で行われる人間工学などの講座での学びをどのように仕事に落とし込んでいるかについてご紹介頂く。これらに基づいて人間工学がものづくり現場において今後どのように貢献していけるかについて新たな可能性を考えたい。
- ・講演1：現場作業員から見た製造業における生産改善の取り組み 松浦幸妃氏(山形産業技術短大産業技術専攻科(社会人学生、製造業勤務))
- ・講演2：産業技術短大の社会人講座での学びをどう仕事に落とし込むか 高橋智恵氏(山形産業技術短大社会人講座受講生(製造業勤務、製品開発担当))

2) 第2回研究会：

- ・テーマ：人材育成と人間工学
- ・企画：狩川大輔(東北大学)・大橋智樹(宮城学院女子大学)
- ・日時：2020年2月15日(土)14:00～17:30
- ・場所：東北大学青葉山キャンパス 総合研究棟1F 110号室
- ・趣旨：現代の産業界では作業の標準化・分業化が進められ、システムの安定的・効率的な稼働に貢献してきた。その一方で、人間の持つ創造性や応用力の重要性が昨今改めて認識され、いかにしてそのような能力に富んだ人材を育成するかが、分野を問わず大きな課題となっている。研究会では、航空分野、航空管制分野、海運分野で人材育成にあたってこられた講師をお招きし、各分野における人材育成上の課題やその解決に向けた取り組みについてご紹介頂き、産業界を支える人材の育成に人間工学がどのように貢献できるかについて考えたい。
- ・講演1：航空分野における人材育成①パイロットの養成 和田尚氏(日本航空株式会社運航本部訓練審査企画部乗員養成室A350機長/飛行訓練教官)
- ・講演2：航空分野における人材育成②航空管制官の養成 青山久枝氏(国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所主幹研究員/航空管制官)
- ・講演3：海運分野における人材育成 航海士の養成 齊藤学氏(独立行政法人海技教育機構海技大学校航海科講師)

3) 第3回研究会(新型コロナウイルス感染症により延期)

- ・テーマ：航空自衛隊における安全確保とリーダーシップ

- ・企画：高橋信（東北大学）
- ・日時：2020年3月14日（土）14:30～17:30
- ・場所：東北大学青葉山キャンパス 総合研究棟1F 110号室
- ・趣旨：本研究会ではこれまで原子力分野、航空分野、そして医療分野における安全の問題を、レジリエンスエンジニアリングという視点で議論を行ってきた。今回は航空自衛隊組織の現場における安全確保の基本的な考え方をお話し頂き、これまで我々が議論してきたレジリエンスの観点からの内容との類似性、そして違いをあきらかにしていきたい。
- ・講演：時藤和夫氏（航空自衛隊幹部学校客員研究員）

4-3. 関東支部

{支部長:矢口 博之}

(1) 第49回関東支部大会・第25回卒業研究発表会

- 1) 開催日：2019年12月7日(土)～8日(日)
- 2) 会場：千葉工業大学 新習志野校舎7号館
- 3) 大会長：中本 和宏先生
- 4) 参加者数：正会員62名、非会員12名、学生97名の計171名
- 5) 特別講演「深宇宙探査機における1チャンスイベントの運用現場」
- 6) 山田 学先生（千葉工業大学惑星探査研究センター）
- 7) 一般演題：10セッション（37件）、卒業研究発表会：8セッション（30件）、企業展示（1件）、人間工学専門家資格紹介、学生交流カフェIV
- 8) 懇親会（参加者：52名・招待者および無料入場者含む）

(2) 支部委員会

- 1) 第1回：2019年6月15日(土) 会場：日本大学 理工学部 駿河台キャンパス
- 2) 第2回：2019年12月7日(土) 会場：千葉工業大学 新習志野校舎
- 3) 通信支部委員会を2019年9月に開催

(3) 支部総会

開催日：2019年12月7日(土) 会場：千葉工業大学 新習志野校舎

(4) 支部委員・支部長選挙

- 1) 本部の代議員選挙に合わせ、電子投票で支部委員選挙を実施
- 2) 次期支部長選挙を2019年12月に実施

(5) 見学会（中止）

- 1) 日時：2020年3月19日(木) 13:30～15:30
 - 2) 場所：産業技術総合研究所 柏センター
 - 3) 特別講演：「人間拡張技術による新サービスの創出講師」
 - ・持丸 正明先生（産業技術研究所人間拡張研究センター研究センター長）
- を予定していたが、COVID-19感染拡大防止の観点から中止とした。

(6) ニュースレターの発行:

支部委員選挙の案内(11月)、見学会の案内(1月)をメールリングリストにより発行した。

4-4. 東海支部

{支部長:松岡 敏生}

- (1) 日本人間工学会東海支部総会開催
 - 開催日時: 2019年5月18日(土) 15:00-15:30
 - 開催場所: 名古屋市立大学ミッドタウン名駅サテライト(名古屋市中村区)
- (2) 講演会の開催
 - 開催日時: 2019年5月18日(土) 15:45-16:45
 - 開催場所: 名古屋市立大学ミッドタウン名駅サテライト(名古屋市中村区)
 - 演題: 「UXデザインの実践と教育」
 - 演者: 芝浦工業大学 教授 吉武 良治 先生 ((一社)日本人間工学会理事長)
- (3) 支部役員会
 - 第1回支部役員会 2019年5月18日(土) 名古屋市立大学ミッドタウン名駅サテライト
 - 第2回支部役員会 2019年10月5日(土) 名古屋工業大学
 - その他, メール審議
- (4) 日本人間工学会東海支部 2019 年研究大会の開催
 - 開催日: 2019年11月2日(土)
 - 開催場所: 名古屋工業大学(名古屋市中村区)
 - 大会長: 名古屋工業大学 准教授 神田 幸治 先生
 - 特別講演: 「統計学の不易流行 ~遺伝学データからビッグデータまで~」
 - 演者: 愛知工業大学経営学部 教授 仁科 健 先生
 - 若手人材支援企画: 「人間工学実験前に確認しておくべきこと」
 - 講師: 神田 幸治 先生(名古屋工業大学)
 - 特別企画: 「認定人間工学専門家の紹介 一目指すビジョンと施策」
 - 講師: 福住 伸一 先生(人間工学専門家認定機構/理化学研究所)
 - 概要: 一般講演37演題、参加者87名
- (5) 東海支部企画 企業見学会
 - 開催日時: 2020年1月16日(木) 14:00-16:00
 - 開催場所: 第一工業製薬株式会社 安全教育研修所(三重県四日市市)
 - 概要: 安全教育研修所の見学, 研修設備の体験
 - 参加者: 11名

3-5. 関西支部

{支部長:大須賀 美恵子}

【2019年度事業】

(1) 企画・行事等

1) 第1回見学会

日程: 2019年7月13日(土) 14:00~16:00

見学先: 関西学院大学 応用心理科学研究センター

内容: 生理・行動実験システムの見学, デモ

参加者: 13名(正会員6名, 準会員1名, 非会員6名(うち, 学生3名))

2) 2019年度ワークショップ【学生と企業若手の出会いの場を作ろう】

テーマ「2030年のライフスタイル」

日程: 2019年11月30日(土)

※10月12日(土)に台風により中止したものを, 同企画で再設定

会場: 大阪工業大学 梅田キャンパス

共 催：大阪工業大学 ロボティクス&デザイン工学部

参加者：企業5社6テーマ(株式会社ノーリツ取消)，学生19名(申込21名)，ファシリテータ8名

3) 第2回見学会 (本年度関西支部大会のプレ企画として実施)

日 程：2019年12月13日(金) 15:00～17:00

見学先：金沢工業大学 ライブラリーセンター，夢考房，チャレンジラボ

内 容：1) 工学の曙文庫の見学

2) 学生プロジェクトが実施されている夢考房の見学

3) 分野融合型プロジェクトが実施されているチャレンジラボの見学

※ 学会誌 人間工学56(1)に開催報告掲載

4) 2019年度日本人間工学会関西支部大会

開催日：2019年12月14日(土)

会 場：金沢歌劇座(金沢市)

大会長：神宮 英夫 先生(金沢工業大学 情報フロンティア学部 心理科学科)

参加者数：86名(うち学生30名)

※ 学会誌 人間工学56(1)に開催報告掲載

5) 2019年度 春季講演会(支部総会と併催)

開催日：2020年3月21日(土) 14:00～15:30

会 場：オンライン開催(講演者は産業医科大学，司会進行は大阪工業大学梅田キャンパス，参加者は各自)

共 催：PIE 研究部会(日本人間工学会研究部会)

大阪工業大学ロボティクス&デザイン工学部

講 演：【人間工学会関西支部担当分は延期】

【PIE 研究部会担当】

14:00～15:30 「40年の研究潮流 ～その本流と支流～」

講師：三宅 晋司 先生(産業医科大学教授，日本人間工学会PIE研究部会・部会長)

参加者数：約50名， ※ 学会誌 人間工学56(2)に開催報告掲載

(2) 会議・総会等

1) 第1回幹事会 2019年6月25日(火) 18:30～20:00，会場：大阪工業大学梅田キャンパス

2) 第1回評議員会・役員会合同会議 2019年12月14日(土) 12:30～13:20

会場：金沢歌劇座(関西支部大会と併催)

3) 評議員選挙

投票用紙発送：2019年11月19日(金)

投票締切：2019年12月20日(金)(消印有効)

開票作業：2019年12月24日(火)(場所：大阪工業大学梅田キャンパス)

4) 臨時総会 2020年1月11～17日(金)，メール審議

支部長・副支部長・評議員の候補者の承認

5) 第2回幹事会 2020年2月4日(火) 18:00～19:30，会場：大阪工業大学梅田キャンパス

6) 第2回評議員会 2020年2月17日(月)，メール決議，優秀発表賞の決定

7) 2019年度会計監査 2020年3月12日(木) 17:00～18:10，オンライン

8) 第2回評議員会・役員会合同会議 2020年3月21日(土) 12:00～12:50，オンライン

9) 支部総会(本会議) 2020年3月21日(土) 13:00～13:50，オンライン

(出席者29名，議長への議決権委任41名，計70名)

10) 優秀発表賞授賞式(支部総会と併催)，オンライン，受賞者は以下のとおり(50音順)

市川航暉(金沢工業大学)「感動の指数化の提案—芸術祭での記憶を手がかりに—」

小幡浩大(関西学院大学)「ビスポーク場面におけるユーザの評価因子と満足感に関する検討」

菅野将輝(兵庫県立大学)「視点に対する視覚刺激位置と視覚誘発電位の発生部位に関する検討」

藤原悠史（大阪大学）「3次元空間内での作業におけるヘッドアップディスプレイの利用が作業パフォーマンスと作業負担に及ぼす影響への検討」

4-6. 中国・四国支部

{支部長:村田 厚生}

(1) 支部理事会開催

第1回 2019年12月8日（日）広島県立総合体育館ミーティングルーム

第2回 2020年3月28日（土）尾道市民会館33号室

(2) 支部総会開催

2019年12月8日（日）広島県立総合体育館中会議室

(3) 第52回日本人間工学会中国・四国支部大会

2019年12月8日（日）広島県立総合体育館

大会長：横山詔常 氏（参加者：65名）

シンポジウム1件，一般講演13件，ポスター発表11件

(4) 2019年度支部表彰の実施

審査の結果，以下の1編が優秀論文賞として選出された。論文の代表者に当該論文の著者連名の賞状1枚を贈呈する。

論文番号：103

題目：人が予測・実行しやすい連続操作の法則性を用いた「気持ち良さ」の可視化研究

著者：石井秀和（マツダ株式会社） 他3名

4-7. 九州・沖縄支部

{支部長:村木 里志}

(1) 2019年度支部代議員会

1) 月 日:2019年11月16日（土）

2) 会 場:TKP博多駅筑紫口ビジネスセンター（福岡県福岡市）

3) 議 題

- ・2018年度会計報告
- ・2019年度予算案と活動計画
- ・「日本人間工学会九州・沖縄支部規約」変更
- ・支部長・支部役員選挙
- ・その他

(2) 2019年度支部総会

1) 月 日:2019年11月16日（土）

2) 会 場:TKP博多駅筑紫口ビジネスセンター（福岡県福岡市）

3) 議 題

- ・2018年度活動報告と決算
- ・2019年度活動計画と予算案
- ・「日本人間工学会九州・沖縄支部規約」変更
- ・九州・沖縄支部長・支部役員選挙
- ・その他

(3) 第40回九州・沖縄支部大会

1) 月 日:2019年11月16日（土）

2) 会 場:TKP 博多駅筑紫口ビジネスセンター (福岡県福岡市)

3) 大会長: 小崎智照 (福岡女子大学国際文理学部)

4) 発表演題数: 特別企画 (鼎談) 1 件, トピック 1 件, 一般講演 10 件

参加者: 31 名

・特別企画 (鼎談)

佐藤陽彦 (九州大学名誉教授)、村木里志 (九州大学大学院芸術工学研究院)

小崎智照 (福岡女子大学国際文理学部)

・最優秀発表賞

「冬季の暖房時において照明の照度・色温度が人の感じる涼暖感に与える影響の検証」

川合由夏 (同志社大学理工学研究科)

・優秀発表賞

「清拭における乾拭の有無が及ぼす生理的主観的反応とその性差」

黒川雄平 (九州大学大学院医学系学府保健学専攻)

・懇親会: 酒菜一 (福岡県福岡市)

(4) 「九州人間工学 第 40 号」の発行と九州・沖縄支部 Web サイトでの公開

5. 研究部会活動

5-1. ビッグデータ人間工学研究部会

{部会長：吉武 良治}

(1) 活動目的

- 1) 第1期活動のまとめ
- 2) IoTセンサーによるビッグデータ入手方法の確立

(2) 手段・方法

1) 幹事会の運営

2) 第1期活動成果のまとめ

第1期活動内容をリストアップし、各イベントの知見をまとめる活動を実施した。報告書発行は次年度の予定。

3) 講演会を企画

・第2回ビッグデータ人間工学講演会

日時 2020年3月12日(木) 14:30~17:00

場所 芝浦工業大学 芝浦キャンパス(東京・芝浦) 307教室

講演1 「KH Coder と Excel を使ったテキストマイニングの実践」

末吉 美喜先生(株式会社メディアチャンネル)

講演2 「人と ICT が共創する産業用 IoT とデジタル変革」

安達 直矢先生(横河ソリューションサービス株式会社)

→新型コロナウイルスの感染拡大防止のため延期

4) 関西支部総会に付随するセミナーを企画

・2019年度ビッグデータ人間工学セミナー

日時 2020年3月21日(土) 10:00~12:00

場所 大阪工業大学 梅田キャンパス セミナー室202

題名 人間工学で役立つ統計学：研究の質と統計

～学生・若手向け教育講演シリーズ4～

講師 榎原 毅先生(名古屋市立大学 准教授)

→新型コロナウイルスの感染拡大防止のため延期

(3) 成果

イベント2件は延期となったが、企画・準備等の活動で関係者と連携し、情報共有やコミュニケーションを実施することができた。

5-2. 安全人間工学研究部会

{部会長：鳥居塚 崇}

(1) 研究部会の会員と、研究会の参加者を結ぶメーリングリストを用いた情報発信を行っている。鳥居塚(日大)ほか、中西(慶應義塾大)、吉村(海技研)、山出(社会安全研究所)、北村(JR総合研究所)が幹事メンバー。安全人間工学委員会と常に情報を交換・共有し、安全人間工学委員会(首藤由紀委員長)の委員も部会運営に協力した。

(2) 2019年度は4回の研究会を開催(主催・共催を含む)した。その日時、場所、演題は下記のとおりである。

1) 2019年度第1回研究会(産業組織心理学会作業部門研究会および認知心理学会安全心理学部会と共催)

日時：2019年5月25日(土) 14:00~16:30

場所：日本大学経済学部 3号館7階3071教室

テーマ：「ノンテクニカル・スキル/レジリエンス・スキルの教育訓練」

企画・司会：芳賀繁（社会安全研究所）

話題提供者 1：南川忠男（AGC 株式会社）

話題 1：製造業におけるノンテクニカル・スキル教育の実践

話題提供者 2：庄司直人（朝日大学）

話題 2：超急性期災害医療対応を想定した組織レジリエンス・トレーニング

話題提供者 3：野々瀬晃平（一般財団法人 電力中央研究所）

話題 3：原子力発電所の緊急時対応力向上のための TRM スキル向上訓練および評価手法の開発

討論：パネルディスカッション

企画趣旨：安全やチームパフォーマンスを維持し、高めるためには、組織構成員の技術的能力・技能だけでなく、ノンテクニカル・スキルが必要である。ノンテクニカル・スキルにはリーダーシップ、コミュニケーション力、状況認識、意思決定などが含まれるが、これらのスキルを教育・訓練を、企業研修や安全教育の中で体系的に行う取り組みはそれほど多くない。また、レジリエンス・エンジニアリングや Safety-II への注目が増すにつれ、緊急時や、想定外事象が起きた際に柔軟に対応する力をどのように育てたらよいかにも関心が高まっている。そもそも「レジリエンス力」がどのような構成要素からなるのか、ノンテクニカル・スキルとどのような関係があるのかも未解明である。一方、近年、安全教育や防災教育にゲームを取り入れる試みが盛んになってきた。本研究会ではゲーミングを中心としたノンテクニカル・スキルおよびレジリエンス・スキルの教育訓練法について、それぞれ製造業、医療、原子力プラントをフィールドにした研究開発、実践例を紹介し、その特長、効果、問題点、他業種・他職種への応用可能性を議論した。

2) 2019 年度第 2 回研究会（日本人間工学会全国大会におけるシンポジウム）

日時：2019 年 6 月 16 日（日）

場所：日本大学理工学部タワースコラ

テーマ：「諸分野におけるヒューマンファクター的視点による安全対策」

企画・司会：鳥居塚崇（日本大学）

話題提供者 1：鳥居塚崇（日本大学）

話題 1：諸分野における安全対策 ～組織マネジメントと IoT によるマネジメント～

話題提供者 2：本山謙治（建設業労働災害防止協会）

話題 2：建設業の新たなヒューマンエラー対策を模索する～メンタルヘルス、ICT、ISO45001 への対応

話題提供者 3：氏田博士（原子力安全推進協会）

話題 3：原子力分野におけるシステム安全とヒューマンファクタ

話題提供者 4：プラント運転監視におけるヒューマンファクターと AI 活用

話題 4：高井努（株式会社アズビル）

3) 2019 年度第 3 回研究会（安全工学シンポジウム企画セッション）

日時：2019 年 7 月 3 日（水）10:20～12:20

場所：日本学術会議（東京都港区六本木 7-22-34）第 2 室 2 階

テーマ：「効果的な警告音とは何か」

企画／座長：佐相邦英（電力中央研究所）、芳賀繁（社会安全研究所）

話題提供者 1：岩宮眞一郎（日本大学）

話題 1：警告音のデザイン

話題提供者 2：篠原一光、北村昭彦（大阪大学）、兼崎暁美（篠原電機）、柳原崇男（近畿大学）

話題 2：横断歩道用音響信号の設置位置と視覚障がい者の道路横断

話題提供者 3：関根道昭、坂本一朗（交通安全環境研究所）

話題 3：電動車両における車両接近通報音の基本コンセプトと認知性評価実験

話題提供者 4：橋本仁成、上杉卓正（西日本旅客鉄道）

話題 4：運転室内サイン音の複数音同時鳴動時の聞き分け調査

4) 関連する研究会への協力（早稲田大学創造理工学部人間工学研究室および HQL 主催の研究会への協力）

日時：2019年11月11日（月）13:30～17:00

場所：早稲田大学 西早稲田キャンパス 62号館1階会議室

テーマ：「自然に楽しく行動を誘導する」

企画・司会：小松原明哲（早稲田大学）

話題提供者1：日比野治雄（千葉大学大学院）

話題1：デザイン心理学による付加価値の創造 - Nudge と Evidence-based Design の視点から -

話題提供者2：貞清一浩（清水建設）

話題2：インクルーシブな社会の実現に向けた音声ナビゲーションシステム

話題提供者3：中川浩史（博報堂講堂デザイン研究所）

話題3：生活者の行動をアクティベートするこれからのコミュニケーションとは

- (3) 安全人間工学研究部会は再スタートを切ってから10年が経った。発足当初は小さな規模で安全に関する先進的な研究を発表する場であったように記憶していますが、徐々に参加人数が増え、中規模の講演会のような形式になってきた。安全を人間工学的立場から研究する研究者への情報提供という観点からは一定の役割を果たしてきたと考える。また近年は部会企画の講演会に加え、他学会とのコラボによる講演会を行うなど議論が活発化してきた。そこで「研究部会」としての役割を再検討する時期が来たと判断した。つまり「研究部会」は社会発信だけでなく「研究の場」であるべきであるということである。以上より、2019年度を以て安全人間工学研究部会を一旦休止し、安全人間工学研究部会と安全委員会の役割を整理した上で再スタートしようとする。部会員が協力して競争型資金の獲得を目指したり、原著論文発表を目指した研究を企画・遂行したり、文字通り研究主導型の部会として、2021年度以降、準備が整いし改めて再スタートを切りたい。

5-3. PIE 研究部会

{部会長：三宅 晋司}

(1) 活動目的

従来の生理心理計測手法とこれを人間工学分野に適用する際の方法論について議論し、新しい生理計測手法や装置に関する情報交換と役に立つPIEに向けて共通認識をもち、解決すべき課題を明らかにする。さらに、企業と連携して人間工学分野における生理心理計測応用のグッドプラクティス事例の収集を行う。また、倫理的な側面についても議論を進め、必要に応じ啓発活動を行う。

(2) 方法・手段

日本人間工学会大会および支部大会等で企画セッション・講演会・ワークショップを開催する。

(3) 成果

- 1) 第60回全国大会（2019.6.16, 東京）にて、特別講演（渡邊 淳司（NTT コミュニケーション科学基礎研究所））とパネルディスカッション「ポジティブ心理学生理学」（パネラー：渡邊淳司，三宅晋司，栗谷川幸代）および企画セッション「ポジティブ心理学生理学」（部会員より5演題発表）を開催した。参加者：約40名。
（学会誌 人間工学 55(5)に学術集会参加報告掲載（執筆者：蜂須賀 知理））
- 2) 関西支部大会（2019.12.14, 金沢）にて、企画セッション「続・ポジティブ心理学生理学」を開催した。
三宅 美博（東京工業大学情報理工学院）先生の『『場』の可視化システム～IoT から IoH への展開』と題した特別講演の後、質疑応答に特化したサービス sli.do を利用した議論を行った。参加者：25名。
（学会誌 人間工学 56(1)に学術集会参加報告掲載（執筆者：黒坂 知絵））
- 3) 2019年度日本人間工学会関西支部総会（2020.3.19）に併せて、春季講演会を共催し、部会長（三宅晋司，産業医大）が、「40年の研究潮流 ～その本流と支流～」という題目で講演した。Zoomによるオンライン開催という初めての試みであった。参加者数：約50名，（学会誌 人間工学 56(3)に開催報告掲載予定（執筆者：山田晋平））
- 4) PIE研究部会編「生理計測とデータ解析ノウハウ」（楸エヌ・ティー・エス，2017.3.24発刊）の重版が刊行された。

2020年3月31日現在 部会員数70名（うち、日本人間工学会非会員30名）

参考：2020年3月31日現在 部会員数62名（うち、日本人間工学会非会員27名）

5-4. 衣服人間工学部会

{部会長：土肥 麻佐子}

(1) 活動テーマ

2012年度より「グリーンファッションに関する研究」をテーマに活動している。2019年度は、8月にプリーツ工場と織物工場の見学、2月にアパレル産業の視点から持続可能な社会について考える講演会の2回の研究会を企画した。

(2) 活動内容

1) 研究例会

8月に予定していた第1回例会は台風19号の影響で、2月に予定していた第2回例会は新型コロナウイルスの影響で中止とした。

2) 役員会

役員会を1回開催した。それ以降の役員会は研究例会の開催日に予定していたが中止したため、メールによる審議を数回行った。

- ・ 第1回役員会：2019年6月8日（土） 於 文化学園大学

5-5. 航空人間工学部会

{部会長：竹内 由則}

(1) 研究目的

航空人間工学に関する知識の普及、情報の共有化を目的として、本年度は、他分野を含む幅広いヒューマンファクター研究にかかわる進展、事故事例から得た人間特性及びヒューマンマシンインターフェイスに関する事故防止方策の動向を分析検討する。

(2) 方法・手段

上期の活動として例会を開催した。また、下期の活動として施設見学会を行った。概要は以下のとおりである。

1) 例会（公開講座）

日時：2019年6月14日（金） 10：00-16：30

場所：野村不動産天王洲ビル2F

参加者数：155名

【講演】

- (1) 演題 「航空機における気象の問題と解決に向けた研究」
講演者：神田 淳 氏（宇宙航空研究開発機構 航空技術部門 次世代航空イノベーションハブ 気象影響防御技術チーム チーム長）
- (2) 演題 「Competency Based Training～実運航に即した実践的な訓練の開発について～」
講演者：齋藤 縣 氏（全日空 フライトオペレーションセンター 品質企画部 AQP チーム マネジャー）
(AQPはAdvanced Qualification Programの略で新たな訓練・審査プログラムを意味する)
- (3) 演題 「航空会社（日本航空 グループ）における安全管理」
講演者：村田 敬 氏（日本航空 安全推進本部 安全推進部 安全企画グループ グループ長）
- (4) 演題 「医療におけるレジリエンスの考え方」

講演者：中村 京太 氏（横浜市立大学附属市民総合医療センター 医療安全管理学
准教授 医療の質・安全管理部長 安全管理指導者）

(5) 演題 「失念防止法としての先取喚呼」

講演者：佐藤 文紀 氏（公益財団法人 鉄道総合技術研究所 人間科学研究部
安全心理研究室 副主任研究員）

2) 施設見学会の実施

2019 年度施設見学会を以下の要領で実施した。

日時：2020 年 1 月 30 日(木) 13:30-16:00

場所：公益財団法人 鉄道総合技術研究所

内容：鉄道総合技術研究所内の施設見学

1. 総研内（人間科学研究部以外）の試験装置の見学
2. 人間科学研究部の試験装置の見学
3. 人間科学研究部との意見交換会

参加者数：24 名

3) 委員会

本部会の運営に係る方針を決定するために、今年度は委員会を 2 回開催した。

委員会の概要は以下のとおりである。

・第 69 回委員会（2019 年度第 1 回 委員会）

日時：2019 年 12 月 6 日（金） 13:00-14:30

場所：（公財）航空輸送技術研究センター（ATEC） 会議室

議題：

- ・本年度活動状況
- ・第 101 回例会（公開講座）
- ・第 102 回例会（公開講座）
- ・現時点での収支報告
- ・見学会について
- ・今後の委員会・幹事会の予定

・第 70 回委員会（2019 年度第 2 回 委員会）

日時：2020 年 3 月 11 日（水） 9:30-11:00

場所：（公財）航空輸送技術研究センター（ATEC） 会議室

議題：

- ・見学会報告
- ・第 102 回例会（公開講座）について
- ・2019 年度会計報告
- ・2019 年度事業報告
- ・2020 年度事業計画
- ・第 102 回例会の準備
- ・今後の予定

その他、委員会および例会の活動準備等のため、2019 年度は幹事会を 4 回開催した。

4) ホームページの運営

インターネットホームページにより、非会員も含め多くの関係者に対して航空人間工学への理解・関心を深めることに貢献した。例会の申し込みはホームページから行えるようになっており、広く周知できることで、今年度の活動においては非会員からの参加申し込みも多数あった。

(3) 成果及び展望

本年度の例会では「航空機における気象の問題と解決に向けた研究」「Competency Based Training～実運航に即した実践的な訓練の開発について～」「航空会社（JAL グループ）における安全管理」「医療におけるレジリエンスの考え方」「失念防止法としての先取喚呼」の演題を通して、他分野を含む幅広いヒューマンファクターに関する知見を参加者間で共有し、理解を深めることができた。

また、施設見学会では公益財団法人 鉄道総合技術研究所にて鉄道総合技術研究所内の施設見学を実施した。航空と鉄道分野は異なるものの安全運航を堅持するための研究の重要性、安全への思いは共通するものであり、意見交換と施設見学を通して安全面の向上の重要性ならびに安全への強い思いを改めて関係者で再認識・共有できたものとする。

5-6. アーゴデザイン部会

{部会長：高橋 克実}

(1) 目的と活動テーマ：

本部会は、モノづくりやサービス開発のために人間工学とデザインが融合した学際分野(アーゴデザイン)に対して、産学共同で研究を行い情報発信することを目的としている。2019年度は「Future Experience」～ユーザー、企業、社会環境の三方よしのビジョン提案型手法～を活動テーマに、フューチャーエクスペリエンスの実践を中心に進め、三方よしのビジョン提案型デザイン手法のための手法確立に向け、方向性を見いだす研究とその成果の情報発信を行ってきた。

(2) 部会運営と主な活動内容

- ・部会員：89名(正会員66名、学生会員23名、2020年3月31日現在)
- ・活動概要：2019年度はフォーラム2回、コンセプト事例発表会1回、見学会1回、他に、幹事会3回等の様々な活動を実施してきた。以下に主な活動を記す。

1) Xデザイン学校公開講座+第6回フューチャーエクスペリエンスフォーラム座開催(2019年6月14日)

於：丸の内ウシオ電機会議室 参加者：60名

講演2件を実施。

◆講演

- ・「意味のイノベーション」安西洋之(モバイルクルーズ(株)代表)
- ・「FXをデザインする」早川誠二

2) 2019年度コンセプト事例発表会開催(2019年8月30日)

於：首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス 参加者：57名

特別講演1件、口頭発表6件、ポスター展示17件を実施。

- ◆「未来の社会と人にとって魅力的なサービスを考える」河野泉氏(NECマーケティング戦略本部)

3) 見学会開催(2019年10月24日)

於：日立製作所 中央研究所 協創棟 参加者：12名

討論イベント「協創の棟 日立&アーゴデザイン研究部会 討論会」

◆「HCDの発展経緯」「ビジョン提案型デザイン手法」

- ◆顧客協創手法 NEXPERIENCE(サービスデザイン)及びVisionDesignの取り組み事例

4) 第7回フューチャーエクスペリエンス・フォーラム+UXの実践と深淵～HCD事例発表会開催(2020年1月14日)

於：島津製作所 参加者：55名

講演8件、ディスカッションを実施。

テーマ：「ビジョン提案型手法の展開～三方よしのデザイン事例～」

- ◆「デザイン3.0の時代～脱モダンのデザインの世界です」山岡 俊樹（京都女子大学）
- ◆「ビジョンと三方よしのデザイン」山崎 和彦（武蔵野美術大学）
- ◆「三方よしのデザインに関する研究動向」郷 健太郎（山梨大学）
- ◆「一般社団法人 体験設計支援コンソーシアムの活動について」高橋 克実（株式会社ホロンクリエイト）
- ◆「遊び場のユニバーサルデザイン」柳田 宏治（倉敷芸術科学大学）

5) その他の活動

- ・FX_WG 活動中(担当幹事：高橋、上田、笠松、郷、西内、早川、細田、山崎)
- ・UD 実践ガイドラインWG 関連活動 (担当幹事:柳田、山崎、堀野)
- ・FX 教育WG (担当幹事：安藤、笠松、西内、細田、吉武)
- ・書籍「すべての子供に遊びを：ユニバーサルデザインによる公園の遊び場づくりガイド」柳田
- ・ホームページ運用 (担当幹事：早川、高橋)
- ・学生会員に対する指導、啓蒙を実施 (担当幹事：安藤、笠松、西内、細田、吉武)
- ・会員及び幹事会メーリングリスト及び、ホームページホスティングを ergo-design.org にて運営。
- ・HCD-Net Award 2019 審査員特別賞受賞「ビジョン提案型デザイン手法・Experience Vision (上田、郷、高橋、早川、柳田、山崎 著)

(3)成果と展望：

- ・社会、環境面からもデザインを考えるフューチャーエクスペリエンス(FX)の概念を提唱し、ビジョン構築の手法を考察し、FXの実践的な手法について検討を行ってきた。
- ・今後は、FXのために進化させたExperience Visionの手法を教育の場に広げ、デザインやビジネス教育の現場でどのように指導していくかの検討を進めていきたい。

5-7. 感性情報処理・官能評価部会

{部会長：笠松 慶子}

(1)活動目的

感性情報処理と官能評価に関わる諸問題について基礎から応用まで多角的に取り上げ、研究者どうしの情報交換と研究の活性化および研究内容の深度化に資する機会を提供するとともに、この領域の若手研究者の拡大、育成をはかる。

(2)手段・方法

1) 第1回研究会を11月23日(土)に首都大学東京南大沢キャンパスにて開催した。

(10月12日(土)首都大学東京秋葉原キャンパスにて開催予定だったが、台風19号の影響により延期)

・八田直紀(神奈川大学)

「大学生アスリートのウェルビーイング促進に向けた社会性と情動の学習プログラムの開発と評価ーこれまでの研究とプログラム評価における印象評価手法の応用可能性ー」

・江尻綾美(首都大学東京大学院博士後期課程、コニカミノルタ株式会社)

「女性の心身のセルフケアをサポートする体調記録ツールの開発とクラウドファンディングへの挑戦」

2) 第28回システム大会の感性・官能セッション;2020年3月15日(日)において、若手研究者による発表講演を組織、支援した。なお、詳細はシステム大会部会より報告。

3) 第2回研究会を3月に予定していたが、新型コロナウイルスの影響により中止した。

(3)成果

1)第1回研究会には13名の参加があり、参加者のうち、学生会員1名、非会員の大学院生8名を含む先生方であった。八田先生のご講演では、印象評価手法を応用しアスリートのウェルビーイングを促進するためのプログラムを緻密に開発され、それを評価検証された研究についてご紹介いただいた。アスリートは極限まで身体やこころを鍛えることが期待される中、ウェルビーイングをどのように保っていくか、大変興味深いご研究であった。

2)2件目の江尻先生のご講演では、女性の心身をセルフケアできるツールをご紹介いただき、それをクラウドファンディングにより製品化まで行った研究についてご紹介いただいた。現存するセルフケアツールにはないオリジナルの点やクラウドファンディングのためのポイントなどについてもご教授いただいた。これらのご講演に対し、さまざまな視点からのご質問やご指摘をいただき活発な議論がなされた。

2)大会はオンラインで開催され、事前に準備したプレゼン資料をストリーミング配信し、質疑はチャットを用いて行われた。初のオンライン開催ではあったが、活発な質疑応答が行われ、貴重な事例となったと考えられる。COVID-19の影響により社会の変革が求められている中、今後はこのような取り組みも積極的に検討していく必要がある。

(4)問題点と展望

本年度は、台風やCOVID-19の影響により活動が制限されてしまったが、今後は研究を止めることなく、心のケアも含めた非常事態への対応を検討していくことが求められる。また、昨年度以上に、企業を中心として異業種の専門家が連携して、新たな価値創造を生むための試みが多くなされていることが、ご講演を通して実感として理解できた。これは、少なくとも日本におけるモノづくりの品質において、工学が関わる“当たり前の品質”とともに、新たに個人の主観に深く訴える感性価値や経験価値の重要性が増し、その品質の捉え方を探求していく必要があると考える。

以上の背景に基づいて、本年度も研究会において有益な成果を上げたと考えている。今後も引き続き、感性・官能の分野を研究領域に含む若手の研究や萌芽の研究に関する、発表・(指導的な指摘も含めた)議論ができる場を提供して行きたい。

5-8. 海事人間工学研究部会

{部会長：才木 常正}

(1)テーマ

日本は海に囲まれた島国であることから、他国に比べて多くの人が海に携わった仕事に従事している。更に、仕事として関わりが無くても、非常に多くの人が趣味としてマリッジを楽しんでいる。しかしながら、これら海事の分野において、人間工学を学術的に取り入れた研究や製品開発に活かした事例は現時点ではまだまだ少ない。そこで、本研究部会の活動を通して、人間工学を海事分野に広く普及させ、海事の現場に人間工学に基づき設計されたシステムや製品導入を加速させる。

(2)手段・方法

1)企画セッションの実施

2019年11月2日に開催された日本人間工学会東海支部2019年研究大会(名古屋工業大学)にて、下記の企画セッションを実施した。

テーマ：海と人

目的：ダイバーと船員の作業向上および安全確保を題材として取り上げて最新の海事人間工学研究を紹介し、議論を通して海事人間工学研究の発展に役立てる。

オーガナイザ兼座長：才木常正(兵庫県立工業技術センター)

講演：

1. 「ダイバーの安全監視のための顔における脈波計測の検討」 瀧澤由佳子(兵庫県立工業技術センター)
2. 「実習生を対象とした指差呼称の効果に関する研究」 吉村健志(国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所)
3. 「ウェアラブル生体センサによる操船シミュレータ訓練評価支援に関する研究」 村井康二(東京海洋大学)
4. 「衛星による船上死傷事故予防の提案」 北村健一(鳥羽商船高等専門学校)

2) 見学会の開催

2020年2月21日に海技教育機構海技大学校（兵庫県芦屋市）で、操船シミュレータの見学会を開催した。本見学会では、操船シミュレータの実演と説明だけに止まらず、見学先の配慮によりシミュレータによる操船体験もさせて頂いた。更に、見学後に、見学者との意見交換会を開き、本研究部会と企業の技術交流方法について模索した。

3) 幹事会の開催

2019年11月2日と2020年2月21日にそれぞれ名古屋工業大学と海技大学校で幹事会を開催し、2020年度の本研究部会の事業計画（案）を策定した。

(3) 成果

企画セッションを通じて、最新の海事関連研究に関する情報を発信し、他分野の人間工学専門家や研究員と海事分野における人間工学について議論することができた。更に、見学会を通じて、海事人間工学に興味を持って頂ける人との人脈が広がった。

(4) 展望

人間工学を専門とする研究者や技術者が海事分野における研究課題に関心を持てるよう、さらに魅力的な企画セッション及び見学会等を開催する。

5-9. ワーク・アーゴノミクス研究部会

{部会長：青木 和夫}

(1) 第3回幹事会・見学会（2019年4月4日：オカムラ椅子の博物館）

オカムラ椅子の博物館の見学を行った後、同所にて幹事会を開催した。テレワーク等の機会が多くなり、オフィス用具やIT機器等の使いやすい環境を自分自身で整備し健康管理を行なうことが必要になってきた。そこで、幹事会ではまずオフィスワークを対象に、自分(他人)の働く・学ぶ環境の設定をできる知識を人間工学会会員向けに提供するためのガイドラインを作成することとした。

(2) 第60回大会における企画セッション「最新のオフィスワークと健康」（2019年6月16日：日本大学理工学部）

- ・ワーク・アーゴノミクス研究部会の活動について（青木和夫）
- ・オフィスワークと法令（城内博）
- ・オフィスの最新の動向（浅田晴之）
- ・オフィスワークの実際（井出有紀子）

(3) 第4回幹事会（2020年1月8日：日本大学理工学部）

- ・研究部会のアウトプットとして、オフィスワークのガイドラインを作成することを決め、目次案について検討した。
- ・見学会について検討を行った。
- ・第61回大会における企画セッション「オフィスワークのガイドライン」についての講演テーマを以下のように決定した。
 - ①ガイドラインの目的・概要
 - ②疲労関係
 - ③作業環境

5-10. 自動車人間工学研究部会

{部会長：石橋 基範}

(1) 活動目的

以下の取り組みを通して意見交換や人的ネットワーク形成を進め、より使いやすい自動車の研究開発のために人間工学分野の普及・発展に貢献していく。

1) 将来モビリティに関する議論

自動運転や「空飛ぶクルマ」等の新技術領域で、社会デザインや働き方デザインの面から QOL や人間生活のあるべき姿について議論する。当面は自動運転にフォーカスする。

2) 自動車開発に人間工学を活用する方法論に関する議論

コクピット、先進運転支援システム (ADAS)、デザイン、運動性能等、従来の自動車開発領域で人間工学の適用事例を共有し、「使える人間工学」に持って行くアプローチについて議論する。

(2) 方法・手段

1) 第 60 回大会で研究部会企画シンポジウム「自動車の研究開発における人間工学の活用」を開催する。

2) 自動車人間工学をテーマに、研究部会で独自に講演会を開催する。

(3) 成果

1) 第 60 回大会で以下の内容で研究部会企画シンポジウムを開催した。

・テーマ：自動車の研究開発における人間工学の活用

・内容：

自動車人間工学研究部会の設立について（日本大・石橋）

自動車人間工学におけるユーザ像を明確にすることの重要性（産総研・佐藤）

車載デバイス操作画面デザインに関する一考察（日本大・栗谷川）

モビリティブレン드의効果と自動運転に対する社会受容性（名古屋大・佐藤）

全体ディスカッション

2) 研究部会独自の講演会は未達となった。

3) 2020 年 3 月 31 日現在 部会員数 36 名（うち、日本人間工学会非会員 10 名）。

5-11. システム大会部会

{部会長：衛藤 憲人}

(1) 活動テーマ：

本部会は約 30 年前、感性情報処理・官能評価部会、聴覚コミュニケーション部会、旧ヒトをはかる部会、旧座研究部会、旧視覚エルゴノミクス研究部会が中心となり、人間工学システム連合大会と称し発足、現在システム部会として活動を行なっている。年一回開催される学術集会（システム大会）は、3 月に首都大学東京（南大沢キャンパス）にて二日間（3/15-16）開催予定であった。しかし新型コロナウイルス COVID-19 蔓延拡大の為、物理的な集会は中止し、発表スライドを Web (YouTube) 上で配信し Chat 形式で質疑を行う Streaming 開催を実施した。開催日数・演題数等、規模の縮小は避けられなかったものの、新たな発表方式の提案が行え、極めて成功裏に終えるができた。今後訪れる可能性のある大規模災害への対策を始め、グローバル化の進む現在、Internet 上での会議実施は新たな発表方式として有益な方向性の一つと考えた。同大会開催に向けて複数回の幹事会を開いたので報告する。

(2) 部会運営と主な活動内容

○システム大会幹事会

・第 1 回システム大会幹事会

日時：2019 年 7 月 20 日(土) 15:00~16:00

場所：早稲田大学・西早稲田キャンパス（東京都新宿区）

議題：第 27 回システム大会収支報告・第 28 回システム大会幹事校の決定 等

・第 2 回システム大会幹事会

日時：2019 年 11 月 20 日(土) 12:00~13:00

場所：首都大学東京・南大沢キャンパス

議題：参加費，夜話，セッション，広報，その他部会運営について

・第3回システム大会幹事会

日時：2020年2月29日(土)13:00～14:00

場所：首都大学東京・南大沢キャンパスおよびテレワークにて実施

議題：新型コロナウイルス COVID-19 蔓延に対する対応協議

(3)展望：

発足時は大会幹事が所属する研究室の研究発表の性質が強かったシステム大会であるが，近年全国の研究者より演題が集まるようになった．より開かれた学会を目指し，さらなる他分野の研究者の参加，英文機関紙（Journal of Ergonomic Technology: JET）の発行を推進し，JES 発展に向けて積極的展開を目指している．

Ⅲ. 2020年度事業計画(案)

1. 事業計画

{総務担当：石橋 基範、中川 千鶴}

- (1) 一般社団法人日本人間工学会は、人間工学を実践する学術団体として、安寧な社会システムを構築するために寄与することを目指す。
- (2) COVID-19感染拡大防止対応のため、第61回大会（村田厚生大会長）は現地での口頭発表を中止とし、誌上発表とする。
- (3) 2020年定時社員総会を2020年6月13日（土）に学会事務局において開催し、2019年度事業報告・収支決算、2020年度事業計画・収支予算の審議等を行う。
- (4) 第62回大会を大須賀美恵子大会長のもと2021年5月22日（土）～23日（日）に、大阪茶屋町にある大阪工業大学梅田キャンパス（ロボティクス&デザイン工学部）にて開催する。オンライン開催（一部、全部）も想定して準備する。
- (5) 理事会を年4回以上開催する。
- (6) ホームページならびにニュースレター等を中心に広報活動を推進することで人間工学の普及に努める。
- (7) 機関誌「人間工学」の第56巻2～6号および第57巻1号の計6冊を発行する。
- (8) 認定人間工学専門家資格認定試験（A方式試験）を年2回実施、また人間工学準専門家および人間工学アシスタント各試験を年4回程度実施する。その他、再認定制度（生涯研修制度）推進等の活動を行うとともにシンポジウム、講演会、セミナーを開催し、資格制度の対外アピールを積極的に行う。
- (9) 長期的に事業を行う常設委員会・担当と、特定の目標を定め、得られた成果を学会として組織的に活用する臨時委員会・担当を置く。常設委員会・担当としては、総務担当、財務担当、広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159国内対策委員会、表彰委員会、安全人間工学委員会、学術担当、人間工学専門家認定機構を設ける。また臨時委員会・担当として、若手支援委員会、企業活動推進委員会、人間工学戦略ロードマップ検討委員会、国際誌検討委員会、子どものICT活用委員会、第61回大会担当および第62回大会担当を設置し、各事業を積極的に進める。
- (10) 支部活動および研究部会活動を推進し、その成果を学会員ならびに社会に広める。衣服人間工学部会、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、海事人間工学研究部会、ワーク・アーゴノミクス研究部会、自動車人間工学研究部会、ビッグデータ人間工学研究部会、PIE研究部会、システム大会部会の計10研究部会で活動を行う。
- (11) IEA（国際人間工学連合）およびACED（アジア人間工学評議会）と連携して様々な国際協力活動を推進する。IEAからの情報の国内展開、およびJES情報の海外発信、IEAウェブサイトの運用支援、IEA評議会およびACEDへの出席準備、IEAアワード申請への協力、IEAおよびACED内の各委員会の協力をを行う。
- (12) ISO/TC159（人間工学）分野の規格の作成・審議および人間工学JIS規格の作成、普及・啓蒙のための活動を行う。TC159/SC1、TC159/SC3、TC159/SC4、TC159/SC5関連の国際会議に出席し、人間工学規格の策定や審議に貢献する。
- (13) 2020年度各賞の授与式を行う。また、2021年度各賞の選考を行うとともに、表彰の準備を進める。各表彰制度の公正かつ効率的な運営および国際表彰への対応の仕組みの検討・整備を進める。
- (14) 安全問題にかかわる日本人間工学会の様々な活動に関する提言、助言、実務を行う。
- (15) 日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローする。
- (16) 若手会員の研究、キャリア形成、交流を支援する。
- (17) 企業での人間工学活動を可視化し、学会の活動に参加する企業のメンバーの倍増を目標とする。
- (18) 「戦略ロードマップ」を策定するための、委員会内にワーキンググループを設置し、ビジョン、戦略、目標、施策の検討を進める。
- (19) 日本人間工学会の公式英文誌の2年後の創刊を目指し、人間工学領域の国際誌動向分析およびニーズ分析等に取り

り組む。

- (20) 学校において子どもが安全で快適にICT機器を活用するための実用的なガイドラインについて、内容とともにその活用方法を検討する。
- (21) 学会事務局は、学会内外の情報伝達の要としての役割を果たすとともに、迅速で正確な業務の執行に努め、学会運営の基盤を支える。また、適宜業務内容を見直し、その効率化と経費節減をはかる。
- (22) 中期的視点で事務所賃貸料の経費削減のため、学会事務局の事務所を移転する。

2. 委員会・担当活動

[常設委員会・担当]

2-1. 広報委員会

{委員長：山田クリス孝介、副委員長：齋藤 祐太、松岡 敏生}

- (1) 理事会、支部、委員会、研究部会、事務局などと連携・協力のもと、ホームページ、JES ニュースレターを中心に広報活動を推進する。重要ニュースのお知らせ、学会主催／協賛等のイベント案内、社会発信等をホームページにて情報発信する。また、特設ページの運用も行う。
- (2) グッドプラクティスデータベース (GPDB) の取り組みを継続するとともに、掲載事例を増加させるための方策について検討する。
- (3) 「人間工学の総合データベース (ERGO Directory)」の取り組みを継続し、人間工学の社会への普及に努めるとともに、学会事務局、各委員会等と連携し、広報活動を行う。
- (4) HP のスペシャルコンテンツ「ピックアップがんばる人間工学家！」の企画・運営を行う。
- (5) ヴァーチャル・ミュージアムの実現に向けた検討を進める。
- (6) Facebook 等 SNS の有効活用を検討する。

2-2. 編集委員会

{委員長：榎原 毅、副委員長：村木 里志}

- (1) 学会誌「人間工学」の年6号分の編集・発行業務を行う。
- (2) これまで「人間工学」に掲載されていた原稿をJ-STAGEへ掲載する作業を進め、学会誌のデジタルアーカイブを行い、原稿の閲覧の簡便化をはかる。
- (3) 「人間工学領域発展のための場」としての学会誌のあり方について、委員会内および学会員との意見交換の場を設け、方針を定める。
- (4) 論文投稿の推進を図る。投稿推進につながるクイック・レビュー制度を継続するほか、昨年度に開始した論文投稿補助制度等を活用し、推進施策について引き続き検討を行う。
- (5) 投稿者への利便性向上、迅速な審査体制の整備および編集委員会業務の効率化を図るため、広報委員会と協力・連携し、電子査読管理システムを継続運用する。遅滞ない業務遂行を実現するため、学会事務局の協力を仰ぐ。利便性向上のために、必要に応じてシステムの改訂を行う。
- (6) 研究上の倫理的配慮と利益相反の申告、著作権譲渡に関して、学術担当と連携して会員への啓蒙をはかる。
- (7) 編集委員会を対面委員会およびメーリングリストによる電子委員会を併用し、原則月1回開催する。
- (8) 学会誌の新しい投稿区分を積極的に活用し、人間工学領域の発展を目指した投稿の促進と新しい課題の共有を行い、学会誌を通じた学会員との対話の場を提供する。
- (9) その他、編集委員会所掌業務への迅速な対応をはかる。

2-3. 国際協力委員会

{委員長：小谷 賢太郎、副委員長：鳥居塚 崇}

- (1) IEA 評議会(開催場所、時期未定)への出席
- (2) ACED 評議会(ボホール, フィリピン 12月1-4日)への出席
 - (1) (2)については国際協力委員が JES からの council member として3名分の投票権執行
- (3) 国際協力活動およびその他
 - ・IEA アワード申請への協力
 - ・IEA 内の各委員会への協力
 - ・ACED 内の各委員会への協力

- ・学会内各委員会などへ国際協力委員としての参加
 - ・学会誌への国際学会参加報告の執筆
 - ・そのほか、JES 活動に関する海外への情報発信など
- なお、IEA 評議会については開催が確定次第、出席する予定である。

2-4. ISO/TC159国内対策委員会

{委員長：佐藤 洋、副委員長：横井 孝志}

ISO/TC159（人間工学）分野の規格の提案、作成、審議、ならびに人間工学JIS規格の作成、普及・啓蒙のための活動を行う。

- (1) 会議：全体会議3回、分科会延べ30回前後開催予定
- (2) 日本主導で審議が予定されている項目
 - ・WG2(高齢者・障害者の人間工学)
 - ・ISO/TR 22411 Ergonomic data and ergonomic guidelines for the application of ISO/IEC Guide 71(2nd Edition)
 - ・SC1（人間工学の一般原則）
 - ・NWIP Ergonomics for children-Guideline for the design of products and services(再提案)
 - ・SC3(人体寸法と生体力学)
 - ・ISO/CD 23979 Ergonomics - Accessible design - Ease of operation
 - ・SC4（人間とシステムのインタラクション）
 - ・NWIP 24505-2(予定) "Ergonomics - Accessible design - Method for creating colour combinations"Part 2: for people with colour deficiencies and low vision
 - ・NWIP 24505-3(予定) "Ergonomics - Accessible design - Method for creating colour combinations"Part 3: general guidance on the use of colour-combination standards
 - ・SC5（物理環境の人間工学）
 - ・ISO/CD 14505-4 Ergonomics of the thermal environment - Evaluation of thermal environments in vehicles - Part 4: Determination of the equivalent temperature by means of a numerical manikin
- (3) 国際会議予定
 - ・TC159/SC1 関連会議、TC159/SC3 関連会議、TC159/SC4 関連会議、TC159/SC5 関連会議ほか

2-5. 表彰委員会

{委員長：堀江 良典、副委員長：鴻巣 努}

- (1) 表彰選考等に関する広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、人間工学専門家認定機構等と連携し、公正かつ効率的な業務運営を行う。
- (2) 功労賞、論文賞、研究奨励賞、人間工学グッドプラクティス賞の選考を行い、各受賞者に対する授与式を行う。
- (3) 大会における優秀研究発表奨励賞の選考を行い、受賞者の所属する支部大会において授与する。
- (4) 表彰委員会ウェブサイトの拡充を図るとともに、受賞者や表彰事例の周知等、学会内外への情報提供に努める。
- (5) 本学会以外の IEA 等国内外の組織の表彰に対する候補者を推薦する。

2-6. 安全人間工学委員会

{委員長：芳賀 繁、副委員長：狩川 大輔}

- (1) 今期から、芳賀（委員長，社会安全研究所），狩川（副委員長，東北大学），鳥居塚（日本大学），佐相（電力中

央研究所), 細田 (関東学院大学), 藤野 (福井県立大学) の 6 人で活動する。

- (2) 他の学協会と連携して、安全に関わる研究・実践活動に関する交流・情報交換の場をつくる。
 - (2-1) 日本学術会議主催「安全工学シンポジウム 2021」を共催し、オーガナイズド・セッションを企画・運営するとともに、幹事学会 (電気学会) はじめ関係学会と共にシンポジウム全体の運営を行う。
 - (2-2) 産業・組織心理学会部門別研究会を協賛し、研究会への参加を呼びかける。
 - (2-3) 「安全・安心のための安全管理と社会環境ワークショップ」を日本品質学会等と共催する。
- (3) 人間工学の視点から安全上の諸問題について社会に向けた発信を行う。

2-7. 学術担当

{担当: 横山 清子、青木 洋貴}

- (1) 日本学術会議、文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的に注視していく。
- (2) 横断型基幹科学技術研究団体連合の理事として総会等に参加し、情報交換を行う。
- (3) 「人間工学研究のための倫理指針」について研究動向等から検討する。

2-8. 人間工学専門家認定機構

{機構長: 八木 佳子、副機構長: 鳥居塚 崇}

- (1) 資格認定試験及び審査を実施する。
 - ・資格認定試験 (A 方式試験) を年 2 回、東京と大阪会場で実施する。
 - 2020 年 9 月 12 日 (土) 東京開催
 - 2021 年 2 月 20 日 (土) 大阪開催
 - ・準専門家・人間工学アシスタント審査を年 4 回程度実施する。
- (2) 定期総会、講演会、幹事会を開催する。
 - 講演会
 - 日時: 2020 年 4 月 21 日 (火) 15:00~17:00
 - 会場: オンライン開催 (zoom)
 - 講演 1: 野中 隆 (株式会社ノーリツ) 「人間工学の入浴行為への活用と可能性の模索」
 - 講演 2: 山崎 友賀 (三菱電機株式会社) 「三菱電機におけるユニバーサルデザインの取り組み」
 - 総会
 - 日時: 2020 年 4 月 21 日 (火) 17:00~17:45
 - 幹事会 (2 回開催予定)
- (3) 再認定を促進するため、個別にご案内の連絡をする。
- (4) JES 内に CPE のビジョン発信及び活動紹介を行うため、支部大会等で発表及び PR する。
- (5) 機構ホームページ、会報、人材 DB (ERGO Directory)、学会大会、広告等を活用して会員の交流と本制度の対外アピールに努める。
- (6) CPE セミナー、CPE サロン (交流会) を充実させる。
- (7) 「人間工学グッドプラクティス賞」(GP 賞) の審査に積極的に協力する。
- (8) ビジョン実現に向けた対外的活動を行う

[臨時委員会・担当]

2-9. 若手支援委員会

{委員長: 加藤 麻樹、副委員長: 境 薫}

- (1) 若手会員 (20 代学部生・大学院生等) の研究活動を支援することを目的とした活動を行う。
 - 若手会員の研究活動を支援する助成制度を設計する。
- (2) 学生や若手が学会活動に継続的に関わることができるような枠組みを検討する。

- 就職後も継続的に若手会員として学会活動に参加するための仕組みを設計する。
- (3) 若手会員による自主的かつ協調的な研究活動に対する支援を行う。
- 若手会員による研究を支援するオープンリソース利用促進の仕組みを設計する。

2-10. 企業活動推進委員会

{委員長：易 強、副委員長：佃 五月、善方 日出夫}

(1) 委員会活動の目的、目標

- 企業での人間工学活動をもっと可視化して、アクティブにするための活動を行う。
- 日本人間工学会の活動に参加する企業のメンバーの倍増を目標とする。

(2) アクションプランの作成

- 企業での人間工学活動の現状を把握する。各支部、委員会に参加している人からヒアリング、委員会のオブザーバーになっていただく。
- 企業での人間工学活動のアクティブメンバーのネットワークを構築する。SNSや掲示板MLを活用して、相互訪問など連絡を密にする。抱えている案件、悩みを気軽に話し合える仕組みを検討する。
- 目標を絞り、産官学の連携による短期的なプロジェクトを立ち上げて、活動するモデルを構築する。

(3) 活動成果の顕在化

- 学会のホームページを通じて情報発信する。
- 全国大会や地方大会で発表やシンポジウムを開催する。
- 他の委員会と連携を取る。

2-11. 人間工学戦略ロードマップ検討委員会

{委員長：三林 洋介、副委員長：中本 和宏}

- (1) 「戦略ロードマップ」を策定するための、委員会内にワーキンググループを設置し、ビジョン、戦略、目標、施策の検討を進める。
- (2) 歴代の学会経験者をはじめ、企業、大学、研究機関等から人間工学に関するニーズを引き出すためのアンケート、ヒアリング、懇談会の実施を検討するとともに人間工学の過去から現在を整理する。
- (3) 若手支援委員会および企業活動推進委員会、他委員会、各支部と連携する。

2-12. 国際誌検討委員会

{委員長：榎原 毅、副委員長：村木 里志、下村 義弘}

学会の公式和文誌「人間工学」は日本の重要誌500誌のひとつとして選定され、当時のJournal @rchive事業で全電子アーカイブ化がなされるなど、和文誌としては国内有数の歴史を持つジャーナルのひとつであるが、日本人間工学会は学術成果の国際発信基盤の整備という面においては、周辺研究分野に比べ遅れている。日本人間工学会の公式英文誌の2年後の創刊を目指し、次のことに取り組む。

- (1) 人間工学領域の国際誌動向分析およびニーズ分析
- (2) 発刊予定の国際誌が対象とする範囲・特色や投稿規程、各種プラットフォーム（出版社、投稿・査読システム、査読方針、掲載料など）ならびに組織運用体制の整備
- (3) 国際誌の継続発行（持続可能性）に関する方策の検討（論文投稿者のボトムアップ・育成方策を含む）
- (4) 人間工学研究知見の社会還元を促進させるトランスレーショナル・ジャーナルに必要となる仕掛けの検討（国際誌のアウトリーチ戦略を含む）
- (5) その他、国際誌の発行・運営に必要な諸活動の実施

2-13. 子どもの ICT 活用委員会

{委員長：柴田 隆史、副委員長：岡田 衛}

- (1) タブレット端末や電子黒板などの ICT 機器が学校に導入されている状況を鑑み、子どもが ICT 機器を活用する上での人間工学課題を検討し、各種情報を交換するとともにガイドラインの考え方等を引き続き検討する。
- (2) 文部科学省による GIGA スクール構想などの状況を鑑み、学校教員のみならず、児童生徒に対しても分かりやすい人間工学ガイドラインの作成を目指し、社会への貢献を図る。
- (3) ウェブサイトだけではなく、JES 以外の他研究会などの機会を活用して人間工学ガイドラインを周知させ、効果検証や改訂等へフィードバックさせることを検討する。

2-14. 第 61 回大会担当

{担当：村田 厚生}

COVID-19の感染拡大が続いている状況を鑑みて、学会本部と協議の上、広島県尾道市での第61回大会を中止することとした。登録された原稿については、希望される方に対してJ-Stage上の人間工学第56巻特別号（Supplement）へ掲載することとする。今後の案内は、第61回大会ウェブサイト（<https://www.ergonomics.jp/conference/2020/index.html>）を活用して行う。

2-15. 第 62 回大会担当

{担当：大須賀 美恵子}

【開催日】 2021年 5月22日（土）～23日（日）（予定）

【共催】 大阪工業大学ロボティクス&デザイン工学部

【大会会場】 大阪工業大学梅田キャンパス（〒530-8568 大阪市北区茶屋町1-45），一部はオンラインの良さを生かしたオンライン開催とする。新型コロナウイルス感染症流行状況によっては、すべてオンライン形式で開催する可能性もある。

【懇親会会場】 未定

【内容】 社員総会，特別講演，一般講演，企画シンポジウム，一般募集シンポジウム等

3. 支部活動

3-1. 北海道支部

{支部長：平沢 尚毅}

(1) 会議

1) 支部役員会 2020年6月下旬（予定）

- ・2019年度北海道支部事業報告、2019年度決算報告
- ・2020年度北海道支部事業計画、2020年度北海道支部予算執行計画
- ・2020年度北海道支部大会及び総会、2021年度北海道支部大会及び総会の予定
- ・その他

(2) 2020年度支部総会並びに大会

日 時：2020年11月頃 予定

場 所：小樽商科大学札幌サテライト（札幌駅前） 予定

1) 支部総会議題

- ・2019年度北海道支部事業報告、2019年度決算報告
- ・2020年度北海道支部事業計画、2020年度北海道支部予算執行計画
- ・2021年度北海道支部大会及び総会の予定

3-2. 東北支部

{支部長：本多 薫}

(1) 支部役員会

- ・年3回以上開催予定（支部研究会時に開催）
- 他、必要に応じメール審議にて実施

(2) 支部総会

1) 日時：2020年5月下旬開催（予定）

2) 場所：Webにて開催

3) 議事：2019年度事業報告、2019年度決算報告

2020年度事業計画案、2020年度事業予算案、など。

(3) 支部研究会

年3回以上の開催を予定。支部内の複数地域での開催を通じ活動の活性化と交流を目指す。

(4) その他

研究者と実務家・企業人の意見交換、連携支援を積極的に進める計画である。

3-3. 関東支部

{支部長：矢口 博之}

(1) 第50回関東支部大会・第26回卒業研究発表会の予定

1) 開催日：2020年12月12日(土)～13日(日)

2) 会場：東京海洋大学 越中島キャンパス

3) 大会長：村井 康二先生（東京海洋大学）

(2) 支部委員会 年2回開催予定

開催日：2020年6月(予定) zoom ミーティングによる開催を検討中

2020年12月12日(土) (予定) 会場：東京海洋大学 越中島キャンパス

通信支部委員会を必要に応じて開催

(3) 支部総会

開催日：2020年12月12日(土) (予定) 会場：東京海洋大学 越中島キャンパス

(4) 見学会

開催日：2021年3月に実施(昨年度実施できなかった産業技術総合研究所柏センターなどで計画中)

(5) その他

- 1) 企業・研究機関交流、講演会などを開催(予定)
- 2) ニュースレターの発行(メーリングリストを活用)
- 3) 支部HPのリニューアル など

3-4. 東海支部

{支部長：斎藤 真}

(1) 日本人間工学会東海支部総会開催

- 開催日時：2020年5月30日(土) 15:00-15:30
- 開催方法：オンライン会議

(2) 講演会の開催

- 開催日時：2020年5月30日(土) 15:45-16:45
- 開催方法：オンラインセミナー
- 演題： 公開討論：COVID-19の危機に対して人間工学ができること
- オーガナイザー： 名古屋市立大学 医学研究科 榎原毅 先生

(3) 支部役員会

- 第1回支部役員会 2020年5月30日(土) オンライン会議
- 年2回から3回開催予定、必要に応じてメール審議を実施

(4) 日本人間工学会東海支部2020年研究大会の開催

- 開催日： 2020年10月31日(土)
- 開催場所： 三重県立看護大学(三重県津市)
- 大会長： 三重県立看護大学 教授 大西 範和 先生

(5) 東海支部企画

- 実務者・初学者のための人間工学測定技法講座
- 企業見学会
- 特別企画セミナー, 等を開催予定

3-5. 関西支部

{支部長：久保 博子}

(1) 企画・行事等

- 1) 2020年度 関西支部第1回見学会 2020年 6~8月
- 2) 2020年度 関西支部ワークショップ 2020年10月頃~12月
- 3) 2020年度関西支部第2回見学会(支部大会のプレ企画として実施を検討中)
- 4) 2020年度日本人間工学会関西支部大会
大会長：山岡 俊樹 先生
開催日：2020年12月12日(土)
会場：京都女子大学
- 5) 2020年度 春季講演会(支部総会と併催) 2021年3月下旬

(2) 会議等

- 1) 第1回幹事会 2020年 6月
 - 2) 第1回評議員会・役員会合同会議（支部大会と併催）2020年12月12日（土）
 - 3) 2021～2022年度評議員選挙 2020年11月～2021年1月
 - 4) 第2回幹事会 2021年 2月
 - 5) 第2回評議員会（メール審議）2021年 2月
 - 6) 2020年度会計監査 2021年 3月
 - 7) 第2回評議員会・役員会合同会議 2021年 3月
 - 8) 2020年度関西支部総会 2021年 3月
 - 9) 2020年度支部大会優秀発表表彰式 2021年 3月
- ※7～9は併催
その他、必要に応じ、幹事会および評議員会メール審議を行う

3-6. 中国・四国支部

{支部長:内野 英治}

(1) 支部代議員会開催

- 第1回：日本人間工学会第61回大会期間中を予定していたが、本大会現地開催中止に伴い未定
第2回：2021年3月下旬，場所：未定

(2) 支部大会開催

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、本年度に限り開催しない。

(3) 支部講演会開催

年数回実施（予定）

(4) 支部表彰の実施

(2)の支部大会の不開催に伴い、本年度に限り実施しない。

(5) 支部主催・共催の研究会の実施

随時

3-7. 九州・沖縄支部

{支部長:村木 里志}

(1) 活動計画

1) 2020年度部代議員会

- ・開催日:未定
- ・会 場:未定

*オンライン会議やメール会議での開催も検討

2) 2020年度部総会

- ・開催日:未定
- ・会 場:未定

*オンライン会議やメール会議での開催も検討

3) 第41回支部大会

- ・開催日:未定
- ・会 場:未定

・大会長：未定

4. 研究部会活動

4-1. 衣服人間工学部会

{部会長：土肥 麻佐子}

<2017. 4. 1～2022. 3. 31>

(1) 活動テーマ

2012年度より継続して「グリーンファッションに関する研究」をテーマにした活動を行なっている。今年度についても、衣服の分野から着装のあり方、廃棄ゼロを目指した衣服の構造・デザイン、衣服材料の使い方、衣服のリサイクル、フェアトレードなど、環境問題を視野に入れた研究活動、啓蒙活動を進めていく予定である。

(2) 活動計画

研究例会の開催 2回開催予定

・8月 講演会および工場見学

・2月 講演会およびワークショップ

(3) 期待される成果

講演会、工場見学、ワークショップなどを行うことにより、グリーンファッションに関する研究・教育についての意見交換および研究交流の活性化が期待できる。また、地球環境問題をめぐる消費者の意識の向上に衣生活の立場から貢献できると考えている。

4-2. 航空人間工学部会

{部会長：竹内 由則}

<2018. 4. 1～2023. 3. 31>

(1) 研究目的

航空人間工学に関する知識の普及、情報の共有化を目的として、本年度は、他分野を含む幅広いヒューマンファクター研究にかかわる進展、事故事例から得た人間特性及びヒューマンマシンインターフェイスに関する事故防止方策の動向を分析検討する。

(2) 方法・手段

1) 研究例会の開催

日時：2020年10月13日(火) 10:00-16:30 (今年度はオリパラがあるため10月開催としている)

場所：野村不動産天王洲ビル2F

【予定講演-内諾済】として

(1) 「航空安全と Just Culture について」(仮題) (日本航空)

(2) 「洋上を航行するにあたって、航空機とは違い長時間に亘る業務であったり、海上航行特有の安全対策など」(仮題) (海事人間工学部会)

(3) 「新たなデータ解析～A321 neo データを使った運航のカイゼン支援～(Safety-II)」(仮題) (全日空)

(4) 「旅客機の後方乱気流が Helicopter に与える影響」(仮題) (宇宙航空研究開発機構)

(5) 「安全について」(仮題) (安全人間工学研究部会)

2) 施設見学会の実施

下期に施設見学会を計画・実施する。

3) 部会ホームページの運営

インターネットを使った部会ホームページを活用して当研究部会の活動内容を広く周知するとともに、活動案内の掲示や会員からの参加申し込みにも活用する。

4) 委員会・幹事会の開催

適宜委員会及び幹事会を開催し、部会活動を円滑に行うとともに、会員の意見を部会活動に反映させるよう努める。

(3) 期待される成果

航空安全の推進に関わる官・民・学の多くの組織が関わっているため、これらの関係者が交流し討議を重ね、情報を共有する場を当研究部会が提供することにより、航空人間工学の知見獲得が可能となる。

また、航空の安全の推進へ大きく貢献できるものとする。

4-3. アーゴデザイン部会

{部会長：高橋 克実}

<2018. 4. 1～2023. 3. 31>

(1) 活動テーマ

「Future Experience」～パンデミック収束後の三方よしのビジョン提案型デザイン手法～

2020 年度はフューチャーエクスペリエンス (FX) の確立に向けた実践的な手法で事例を通じた研究活動を実施する。また、これまで研究してきたビジョン提案型デザイン手法との関係を明快にし、アーゴデザインを実践する。また、今回世界を震撼させている新型コロナウイルスの影響により、今後の Future Experience の世界観に影響が出ると考え、「パンデミック後のビジョン」についての研究と議論をアーゴデザインの視点から実施していくこととする。

(2) 手段・方法

1) フューチャーエクスペリエンス (FX)-WG の活動強化

フューチャーエクスペリエンス (FX)-WG の活動をこんな時期だからこそ、更に強化していく。部会活動のテーマである「「Future Experience」～パンデミック収束後の三方よしのビジョン提案型手法～」の検討を本格化させ、新たな方法論確立に向け、テレワーク、テレカンファレンスを可能な限り実施を行い、その研究活動と方法論発表の機会を創り出す。

2) フューチャーエクスペリエンス (FX) の啓蒙・普及活動の実施

「フューチャーエクスペリエンス (FX)」については、これまで以上に EXPERIENCE VISION 普及のためのイベントと兼ね合わせたテレセミナーやテレフォーラムだとしても開催して、「パンデミック収束後の Future Experience」の活動との連携を図る。

3) 学生会員に対する部会活動の充実

定着した学生会員制度により、学生会員が固定化している。2019 年度より FX 教育 WG を設立し、これまで以上に学生の研究やデザイン活動を支援する活動の充実を図る。これにより、次世代を担う研究者やデザイン実務者の育成を強化する。

(3) 期待される効果

テーマに関する研究を本格化することで、将来の社会、環境のあり方を見通し、人間生活をデザインするための基盤となるフューチャーエクスペリエンス (FX) 「ユーザー、企業、社会環境の三方よしのビジョン提案型デザイン方法論」(手法やプロセス) を提供することができる。更にこの方法論を取り入れた「新しい EXPERIENCE VISION」の啓蒙・普及により、社会、環境、産業に貢献できる。

(4) 活動予定

4 月 幹事会(幹事の役割、担当行事の検討)

6 月 FX フォーラム (2019 合宿研究会講演者によるテレカンファレンス)

8 月 コンセプト事例発表会、幹事会

10 月 見学会

11月 選挙

1月 FX フォーラム開催 (HCD_net 関西支部と合同)

3月 2020 合宿研究会、総会、幹事会

4-4. 感性情報処理・官能評価部会

{部会長：笠松 慶子}

<2018. 4. 1~2023. 3. 31>

(1) テーマ

感性情報処理と官能評価に関わる諸問題について基礎から工学的応用までを多角的に取り上げ、研究者・デザイナーおよび職人どうしの情報交換と研究の活性化、および研究内容の深度化に資する機会を提供するとともに、この領域の若手研究者およびデザイナーの育成をはかる。

(2) 手段・方法

感性情報処理や官能評価の基盤となる人間の感覚・知覚・感情・認知等の諸特性、およびそれらの測定・評価方法や数理モデル等の研究成果や製品、サービス等の開発成果について先端的独創的な研究を紹介する。加えて、講演会や若手研究者を主体とした研究会や関連の研究・開発施設や工房などの見学会などを必要に応じて企画・実施する。以上の活動を通して研究者やデザイナー相互の情報交換や交流をはかるとともに、若手研究者・デザイナーの研究意欲を喚起し、人間工学に限定されない有益で具体的なアウトプットの創出の機会を支援する。

(3) 期待される成果

主に感性情報処理と官能評価に関わる研究者の関心や専門領域を共有しつつ、新たな情報や手法などに刺激されたり学んだりする機会を広範に提供することにより、とくに若手研究者の裾野の拡大や関連領域の学問との交流を活性化させることが期待できる。また、研究成果の実用化に伴うさまざまな困難・課題を部会会員が相互に共有・議論する機会を提供・支援することを通して、人間工学のいっそうの発展に資することが期待できる。

以上は、人間工学の実践における人間理解の拡大・深度化にもつながるものと考えられる。それらの過程で、これまで職人の職能としてのみ伝えられてきたモノづくりのノウハウを技術化・見える化を通して、それらのノウハウを現職の職人・デザイナーに提案・還元することで、これまでのモノづくりに新たな価値（例えば感性価値や経験価値）を付加することを可能とする。

4-5. 海事人間工学研究部会

{部会長：才木 常正}

<2018. 4. 1~2023. 3. 31>

(1) テーマ

日本は海に囲まれた島国であることから、他国に比べて多くの人が海に携わった仕事に従事している。更に、仕事として関わりが無くても、非常に多くの人が趣味としてマリレジャーを楽しんでいる。しかしながら、これら海事の分野において、人間工学を学術的に取り入れた研究や製品開発に活かした事例は現時点ではまだまだ少ない。そこで、本研究部会の活動を通して、人間工学を海事分野に広く普及させ、海事の現場に人間工学に基づき設計されたシステムや製品導入を加速させる。

(2) 手段・方法

1) 企画セッションの提案

毎年度、人間工学会の全国大会や支部大会で本研究部会が主体となった企画セッションを行い、様々な分野の人間工学の研究者と議論を交わし、海事人間工学研究の活性化を行う。令和2年度は6月の第61回大会と12月の関東支部大会で企画セッションを行う予定である。

2) 見学会の開催

令和2年度は、12月の関東支部大会前日に東京海洋大学の船舶運航情報を収集管理解析する「先端ナビゲー

トシステム」の見学会を予定している。

3) 新事業の提案

本研究部会メンバーが中心となって海事人間工学の研究開発テーマを議論し、公的助成事業等に申請する予定である。更に、勉強会を開催し、本研究部会と企業との技術交流を推進する予定である。

4) 幹事会の開催

本研究部会の円滑な運営を図るため、毎年度 2 回以上の幹事会を開催する。更に、幹事間のコミュニケーションの頻度を増やすため、会合だけではなくメールリストやWEB 会議システムも活用する。

(3) 期待される効果

企画セッション及び見学会の開催を通じて、最新の海事関連研究に関する情報を発信する。また、研究者や技術者との連携を発展させることで、更なる海事関連研究の活性化及び課題解決を図る。

4-6. ワーク・アーゴノミクス研究部会

{部会長：青木 和夫}

<2018. 4. 1～2023. 3. 31 >

(1) テーマ

テレワーク等の機会が多くなり、オフィス用具やIT機器等の使いやすい環境を自分自身で整備し健康管理を行なうことが必要になってきた。またCOVID-19の感染拡大により在宅勤務が増加し、在宅で適切な作業環境を設定することが課題となっている。そこで、研究部会ではテレワークや在宅勤務も念頭において、自分(他人)の働く・学ぶ環境の設定のできる知識を人間工学専門家向けに提供することを目的とした。

(2) 手段・方法

1) 見学会・幹事会 2020年4月 (Think Lab飯田橋) の予定を延期

2) 第61回大会における企画セッション「オフィスワークの人間工学ガイドラインの構成」

① オフィスワークの人間工学ガイドラインの構成 (青木和夫：日本大学)

② 作業疲労の自己管理の仕方 (松田文子：大原記念労働科学研究所)

③ 作業環境の自己管理の仕方 (北島洋樹：大原記念労働科学研究所)

3) 見学会・講演会などを数回開催予定

(3) 期待される効果

オフィスワーカーが様々な場所で働くことを想定し、快適な作業環境を作業者自身が設定できるように人間工学の専門家が支援する際に参考とするガイドラインを作成する。このことによって、より多くのオフィスワークの作業者が快適な環境で作業ができるようになる。

4-7. 自動車人間工学研究部会

{部会長：石橋 基範}

<2019. 4. 1～2024. 3. 31 >

(1) 活動目的

以下の取り組みを通して意見交換や人的ネットワーク形成を進め、より使いやすい自動車の研究開発のために人間工学分野の普及・発展に貢献していく。

1) 将来モビリティに関する議論

自動運転や「空飛ぶクルマ」等の新技術領域で、社会デザインや働き方デザインの面から QOL や人間生活のあるべき姿について議論する。当面は自動運転にフォーカスする。

2) 自動車開発に人間工学を活用する方法論に関する議論

コクピット、先進運転支援システム (ADAS)、デザイン、運動性能等、従来の自動車開発領域で人間工学の適用事例を共有し、「使える人間工学」に持って行くアプローチについて議論する。

(2) 2020 年度の活動内容 (手段・方法)

- 1) 上記 1) を主たるテーマとして、研究部会として独自に講演会 (オンライン形式を検討) を開催する。
- 2) 第 62 回大会で研究部会独自のシンポジウムを企画・提案する。
- 3) 自動車技術会や人間中心設計推進機構等、他の関係組織との連携を図り、部会員数の増加と議論の活性化を推進する。

(3) 期待される成果

QOL や人間生活の面から自動運転の人間工学に関する現状認識や課題の共有化を行える。また、自動車開発で「使える人間工学」に向けてグッドプラクティスや知見の共有化を行える。以上を通して、自動車人間工学の議論の活性化や当該分野における人間工学会のプレゼンス向上が期待される。

4-8. ビッグデータ人間工学研究部会

{部会長: 吉武 良治}

<2020. 4. 1~2025. 3. 31>

(1) 2020 年度研究部会テーマ

- 1) ビッグデータを用いた人間行動の予測
- 2) 延期した 2 件のイベントの開催および新規勉強会の開催
- 3) ビッグデータ人間工学ノウハウサイトの構築

(2) 活動内容(手段・方法)

- 1) 人間の通常時の行動および非常時下の行動について、過去の行動実績の蓄積であるビッグデータを用いて予測を行う。また、より適切な方向に導くための手段を検討する。
現在の非常時下にあつて、非常時の行動に移行できた人と平時の行動のままで生活する人が存在している。この差をビッグデータにより明らかにし、行動変容を促すためには何が有効なパラメータであるかを導出する。
- 2) 延期している第 2 回人間工学講演会、2019 年度ビッグデータ人間工学セミナーの開催を行う。開催形態はオンライン開催も考慮に入れる。また、新規の勉強会を企画する。
- 3) 第 1 期活動で得られたビッグデータの人間工学的解析によって得られた知見を、研究部会サイトにデータベースとして蓄積・開示する。

(3) 期待される成果

- 1) 当年度のような非常時下にあつて、人間行動の変容を促すための多様な提案がなされてきている。しかしながら、全ての人の行動を正しく導いているとは言い難い状況である。現在までに得られてきている様々なビッグデータを改めて人間工学的に解析することで、より適切な行動変容を起こすためのキーポイントを見出すことができれば、社会的にも有益となる。
- 2) 本講演会は研究部会外および学会外の諸先生方にも参加いただいております、日本人間工学会のアピールの場となっている。本年度はより積極的に学会会員化を目指す。
- 3) 人間工学の視点でまとめられたビッグデータ活用指針のサイトとしてユニークな存在を目指し、社会に人間工学という学問をアピールする。

4-9. PIE 研究部会

{部会長: 大須賀 美恵子}

<2020. 4. 1~2025. 3. 31>

(1) 活動目的

IEA (International Ergonomics Association) の TC (Technical Committee) である Psychophysiology in Ergonomics の日本支部として設立した研究部会であるが、最近、IEA の PIE の活動は低下している。引き続き、IEA の PIE 活動を日本発で盛り上げるとともに、国内の活動を継続する。内容は、これまでと同様で、従来の

生理心理計測手法とこれを人間工学分野に適用する際の方法論について議論し、新しい生理計測手法や装置に関する情報交換と課題の抽出を行う。さらに、企業と連携して人間工学分野における生理心理計測応用のグッドプラクティス事例の収集を行う。また、倫理的な側面についても議論を進める。以上に関し、必要に応じ啓発活動を行う。

(2) 2020 年度の活動内容 (手段・方法)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、対面での活動は当分の間、自粛となる。状況を見て、下記計画の実施を検討するとともに、可能なものについては、オンライン開催にも前向きに取り組む。

- 1) 第 61 回大会にて特別講演 (片平建史先生, 関西学院大学 理工学部 感性価値創造研究センター 研究特任講師), タイトル「ポジティブな感情体験への心理生理学的アプローチ」を開催する。チャットシステムによる議論を予定。(第 61 回大会の現地開催中止に伴い、別機会での開催を検討中。)
- 2) 部会編「生理計測とデータ解析ノウハウ」の執筆者による講演会を実施する。
- 3) 次年度に向け国際学会でのオーガナイズドセッションを企画する。
2021 年度候補学会 : IEA2021 <https://iea2021.org/>
- 4) 10-12 月頃にいずれかの支部大会で PIE セッションを企画する。
- 5) ワークショップや講習会など、公開企画も含めて検討する。
- 6) 部会 website へ生理計測に関する情報 (機器, 解析ソフト, 使用レポート等) を掲示する。
- 7) 部会運営ミーティングあるいはメーリングリスト利用の議論により、部会運営体制を強固なものにし、部会活動をさらに活性化させるとともに、次年度の活動計画を策定する。

(3) 期待される成果

PIE 分野の現状認識、課題の抽出が行え、役に立つ PIE に向けての議論が活性化される。部会外へ情報発信により PIE の裾野を広げる。

4-10. システム大会部会

{部会長 : 衛藤 憲人}

(1) 本会の目的

ヒトをシステム論的立場から研究・議論することを目的に、感性情報処理・官能評価部会、聴覚コミュニケーション部会、旧ヒトをはかる部会、旧座研究部会、旧視覚エルゴノミクス研究部会を中心として立ち上がった本部会は、今年で 28 年目を迎えた。毎年 3 月に開催される研究発表会 (システム大会, 昨年度の第 28 回大会は新型コロナウイルス感染拡大の為 On Line にて開催) は、研究者として第一歩を踏み出す若手研究者、卒業研究生、修士研究生にとって、日本人間工学会全国大会 (毎年 6 月開催)・各地方支部大会前の所謂、萌芽的研究段階における重要な発表の場となっている。さらに近年、全国各地から大学関係者、企業研究者の発表も増え、医学から工学にわたる幅広い分野の研究者が集い、議論できる同大会は盛況である。

(2) 活動の内容

第 28 回システム大会 (2019 年度大会, 首都大学東京主催) を On Line にて Streaming 開催した。具体的には発表スライドを Web (YouTube) 上で配信し Chat 形式で質疑を行う形式であり、大規模な災害等の発生における学会開催・運営の一つのケースとして成功したと考える。例年に続き、今年度も定期大会開催を計画しており、同大会を通じて、学生、若手研究者にも人間工学への興味を持ってもらい、日本人間工学会会員にすべく努力する予定である。次期大会 (第 29 回システム大会, 幹事校未定) 開催に向け、年数回、大学教員を中心に幹事会の実施を計画している。

V. 第7期代議員及び役員選挙報告

(2020年社員総会～2022年社員総会)

【理事長 1名】

吉武 良治

【副理事長 1名】

下村 義弘

(五十音順)

【理事 27名】

青木 洋貴	易 強	石橋 基範	内野 英治	榎原 毅
笠松 慶子	加藤 麻樹	辛島 光彦	狩川 大輔	久保 博子
鴻巣 努	小谷 賢太郎	斎藤 真	境 薫	三林 洋介
下村 義弘	佃 五月	中川 千鶴	中本 和宏	平沢 尚毅
本多 薫	松岡 敏生	村木 里志	矢口 博之	山田 クリス 孝介
横山 清子	吉武 良治			

【監事 2名】

青木 和夫 大須賀 美恵子

【代議員 133名】

青木 和夫	青木 洋貴	赤松 幹之	阿久津 正大	朝尾 隆文
有馬 正和	易 強	飯田 健夫	池浦 良淳	石橋 基範
石原 恵子	石原 茂和	泉 博之	岩切 一幸	岩永 光一
臼井 伸之介	内野 英治	榎原 毅	大内 啓子	大倉 典子
大須賀 美恵子	大杉 淳	太田 壽江	大西 範和	大橋 智樹
大平 肇子	岡田 明	岡田 有策	小美濃 幸司	笠松 慶子
片山 順一	加藤 麻樹	辛島 光彦	狩川 大輔	河合 隆史
川野 常夫	神田 幸治	北村 正晴	木村 貴彦	國澤 尚子
久保 博子	栗谷川 幸代	桑原 教彰	鴻巣 努	小崎 智照
小谷 賢太郎	才木 常正	斎藤 真	斉藤 進	西連地 利己
酒井 一博	境 薫	坂下 哲也	佐久間 航	佐々木 正人
佐々木 美奈子	澤 貢	三林 洋介	篠原 一光	渋谷 雄
下村 義弘	庄司 卓郎	城内 博	申 紅仙	神宮 英夫
新家 敦	鈴木 桂輔	高橋 信	竹内 晴彦	田島 一美
樹野 淳也	田宮 高信	佃 五月	辻 敏夫	辻村 裕次
辻本 恵美	土屋 敏夫	露木 章史	照井 レナ	土井 俊央
戸上 英憲	鳥居塚 崇	中川 千鶴	中島 康博	中西 美和
中本 和宏	中谷 直史	名児耶 厚	西 修二	西川 一男
能登 裕子	芳賀 繁	長谷川 智之	平沢 尚毅	廣川 敬康
深谷 直樹	福住 伸一	福本 正勝	堀内 邦雄	堀江 良典
本多 薫	松岡 敏生	松河 剛司	松田 礼	松田 文子
三上 功生	水垣 州子	水垣 信威千	武藤 憲司	村木 里志
村田 厚生	持丸 正明	森本 一成	矢口 博之	八藤後 猛
山岡 俊樹	山口 俊憲	山田 クリス 孝介	山根 基	山本 まどか
横井 元治	横井 郁子	横山 清子	横山 詔常	吉澤 昌純
吉武 良治	吉成 哲	吉村 健志	依田 光正	Loh Ping Yeap
和田 一成	渡邊 伸吾	渡邊 裕		

一般社団法人日本人間工学会2020年度 委員会/担当等一覧

委員会/担当名	担当・委員長・副委員長等	活動のポイント等
常設委員会・担当（長期的及び継続的に実施する事業）		
総務担当	石橋 基範、中川 千鶴	学会運営の執行管理、事務局機能の強化の検討
財務担当	辛島 光彦、笠松 慶子	財務管理と学会財政に関する中長期計画等の提案
広報委員会	山田 クリス孝介、 松岡 敏生、齋藤 祐太	HP の運用推進、GPDB による実践事例公開、人間工学の社会発信
編集委員会	榎原 毅、村木 里志	学会誌の編集と発行、電子投稿・査読システムの運用
国際協力委員会	小谷 賢太郎、鳥居塚 崇	国際人間工学連合・アジア人間工学デザイン会議等、国際協力活動の推進
ISO/TC159 国内対策委員会	佐藤 洋、横井 孝志	ISO/TC159 に関わる規格の提案・作成・審議、JIS 規格案作成と普及
表彰委員会	堀江 良典、鴻巣 努	表彰制度の見直しと整備、各賞受賞候補者の選考、国際表彰の推進
安全人間工学委員会	芳賀 繁、狩川 大輔	安全に関わる学会活動の提言等、安全工学シンポジウム運営への参加
学術担当	横山 清子、青木 洋貴	日本学術会議との連携、横幹連合への役員派遣、科研費の細目要望
人間工学専門家認定機構	八木 佳子、鳥居塚 崇	認定・再認定実施、講演会・セミナー等の開催、GPDB への協力
臨時委員会・担当（目標と期間を定め、成果を組織的に活用する事業）		
若手支援委員会	加藤 麻樹、境 薫	学生や若手が学会活動に継続的に関わる活動や枠組みを検討
企業活動推進委員会	易 強、佃 五月、善方 日出夫	企業活動や産学連携プロジェクトの見える化、活性化を検討
人間工学戦略ロードマップ検討委員会	三林 洋介、中本 和宏	人間工学、及び JES の過去、及び未来のロードマップの検討と視覚化
国際誌検討委員会	榎原 毅、村木 里志、下村 義弘	人間工学分野の国際誌の現状を調査し、今後の戦略を検討
子どもの ICT 活用委員会	柴田 隆史、岡田 衛	学校等の ICT 機器の使用に関する人間工学課題の検討と情報の共有、ガイドライン作成準備
第 61 回大会担当	村田 厚生	2020 年 6 月に大会開催
第 62 回大会担当	大須賀 美恵子	2021 年 5 月 22～23 日に大会開催

VI. 定款の変更（案）

主たる事務所の所在地の変更理由

現在の事務所の賃貸契約を締結したのが 2010 年 10 月 30 日であり、その後の契約更新で賃借料は据え置きとなっていた。しかし、2019 年 10 月に賃貸人が変わり、2019 年 12 月に新しい賃貸人である株式会社東洋産業より賃借料の値上げを提示された。そこで、賃借料の値上げと、現在の事務所設備の老朽化の両方を考慮し、主たる事務所を移転して所在地を「東京都新宿区」としたい。

なお、移転に際しての条件は、賃借料が現行を大きく上回らないこと、現有の資料・書類を保管できる専有面積があること、交通の利便性が良いこと、インターネット接続環境が整備済みであること、周囲の治安に問題がないこととした。

社員総会の招集方法の変更理由

電子メールやウェブサイト等の電子的な手段による情報伝達が普及し、学術団体による行事案内・申し込み等も多くが電子的手段に移行して費用削減や業務効率化に貢献してきた。一方で、現在の定款では社員総会の招集において開催の連絡手段が書面に限定されており、依然として開催案内の発送費用や事務局の労務工数が効率化できていない。そこで、発送費用の削減と事務局の業務効率化のために、社員総会の開催の連絡手段から「書面」の制限を外し、電子メールを利用できるようにしたい。

なお、中には、諸般の理由により電子メールによる連絡先を事務局に届け出ることを希望しない代議員もいる。その場合は、書面等の何らかの手段で通知を発送することで対応する。

一般社団法人日本人間工学会 定款変更案

【案件 0】 改訂期日

（現行）

令和元年 6 月 15 日

（変更案）

令和 2 年 6 月 13 日

【案件 1】 （事務所） 第 2 条

（現行）

第 2 条 この法人は、主たる事務所を東京都港区に置く。

(変更案)

第2条 この法人は、主たる事務所を東京都新宿区に置く。

【案件2】 (招集) 第24条

(現行)

- 第24条 社員総会は、前条2項3号の規定により代議員が招集する場合を除き、理事長が招集する。但し、第3項但し書きの場合を除き、すべての代議員の同意がある場合は、その手続を省略することができる。
- 2 理事長は、前条第2項第2号の規定による請求があったときは、その日から6週間以内に臨時社員総会を招集しなければならない。
 - 3 社員総会を招集する場合には、次に掲げる事項を記載した書面をもって、開催日の1週間前までに通知を発しなければならない。但し、社員総会に出席しない代議員が書面または電磁的方法によって議決権を行使することができることとするときは開催日の2週間前までに通知を発しなければならない。
 - (1) 社員総会の日時及び場所
 - (2) 社員総会の目的である事項
 - (3) その他法令で定める事項

(変更案)

- 第24条 社員総会は、前条2項3号の規定により代議員が招集する場合を除き、理事長が招集する。但し、第3項但し書きの場合を除き、すべての代議員の同意がある場合は、その手続を省略することができる。
- 2 理事長は、前条第2項第2号の規定による請求があったときは、その日から6週間以内に臨時社員総会を招集しなければならない。
 - 3 社員総会を招集する場合には、次に掲げる事項を記載した書面または電磁的方法をもって、開催日の1週間前までに通知を発しなければならない。但し、社員総会に出席しない代議員が書面または電磁的方法によって議決権を行使することができることとするときは開催日の2週間前までに通知を発しなければならない。
 - (1) 社員総会の日時及び場所
 - (2) 社員総会の目的である事項
 - (3) その他法令で定める事項

以上

人を対象とする人間工学研究の倫理指針 (案)

2020年6月13日 改訂

一般社団法人日本人間工学会

本指針利用の際の留意事項

本指針は、人間工学（Human Factors and Ergonomics）の研究実施者等を対象として、人を対象とする人間工学研究を実施する際に研究対象者および研究実施内容を倫理面から保護するために遵守すべき原則や推奨事項を定めたものである。本指針では、人を対象とする人間工学研究が研究倫理審査を受けることを前提としている。現状では、そのような仕組みが整備されていない場合も少なからずある。しかし、将来的には人を対象とするすべての人間工学研究が研究倫理審査を受けるべきである。

研究倫理審査は研究対象者を保護するだけでなく、研究者自身や組織を保護し、研究の質を高めるものである。積極的に活用していただきたい。

本指針の利用にあたっては以下の点に留意されたい。

1. 本指針には、人を対象とする人間工学研究の適用範囲、研究実施者等が遵守すべき基本的原則、研究計画の管理・承認の体制や基本的責務について書かれている。人間工学研究の定義に則った人間工学研究の実施においては本指針の適用を推奨する。
2. 実際に人間工学研究計画を立案し計画書を作成する際に留意すべき事項や、研究を実施する際に配慮すべき事項を具体的に知りたいときは別冊を参照されたい。別冊ではできるかぎり詳しく事項を設定し、具体的事例やノウハウも多く盛り込んで内容を記載するよう努めた。内容に重複が見られる場合もあるが、これらについては敢えてそのまま残した。
3. 本指針は現時点での関連法規や関連指針、社会的認識等も考慮しながら定めたが、個別の研究計画の策定では、必ずしもこの内容を遵守することで必要十分とは言えない場合、あるいは実態にそぐわない場合等がある。研究計画の作成では本指針を遵守することを原則とするが、計画の妥当性や研究実施の諾否については倫理審査委員会の審議結果に従っていただきたい。

【本指針の引用について】

各機関が独自に当該分野における研究倫理指針を作成する場合に、本指針の引用が必要であれば、自由に引用していただいて構いません。その際、出典として本指針を明記していただけますようお願いいたします。

人間工学研究のための倫理指針検討委員会（五十音順、所属は本指針発行時点）

青木 和夫（日本大学）、

榎原 毅（副委員長、名古屋市立大学大学院）、

北島 洋樹（大原記念労働科学研究所）、

高原 良（株式会社イトーキ）、

福住 伸一（理化学研究所）

石橋 基範（委員長、日本大学）、

大須賀 美恵子（大阪工業大学）、

城戸 恵美子（三菱電機株式会社）、

武田 裕司（産業技術総合研究所）、

第1章 目的、用語の定義、適用範囲

1. 1 目的

この指針の目的は、企業、評価団体、研究機関、大学等の組織で実施される人間工学研究において、研究対象者および研究実施内容を倫理面から保護することにある。この目的を達成するため、本指針では、研究計画の立案、審査、研究の実施等において遵守すべき推奨事項や、そのために必要となる体制や責務等を定めた。

1. 2 用語の定義

(1) 人間工学研究

生活や労働等の場面において、人間の安寧(安全・健康等)と、人間を取り巻くシステム要素(機械装置のハードウェア・ソフトウェア、環境、管理・運用等)との最適化を図り、適正な製品、機器、環境あるいはサービス等を提供するための研究をいう。

(2) 実験・調査・観察

人間工学研究において人を対象として研究を進める場合、実施手段の違いによって、大きく実験、観察、調査、あるいはこれらの2つ以上を組み合わせたものに分類される。

①実験

個人や特定集団に対して条件や環境を人為的に操作することにより、能動的にデータや試料を収集する方法。介入を伴う。また、侵襲を伴う場合がある。

②調査

条件や環境を人為的に操作する程度は小さいが、データや試料は能動的に収集する方法。介入や侵襲を伴う場合がある。

③観察

人為的な操作ができる限り入らない状態で、能動的に働きかけることなくデータや試料を収集し、個人、特定集団、不特定多数の集団の自然な行動(振る舞い)や活動状態等を捉える方法。介入や侵襲は伴わない。

(3) 侵襲・介入

①侵襲

穿刺、切開、薬物投与、放射線照射、高磁場への曝露、電気刺激、心的外傷に触れる質問や映像、感覚刺激の提示、感覚遮断等によって、研究対象者の身体・精神に傷害・負担が生じることをいう。なお、研究のために意図的に緊張や不安等を与えることで研究対象者の精神に負担が生じることも「侵襲」に含まれ、研究対象者の精神に生じる傷害・負担の程度は、一般的に想定される精神的苦痛等に基づいて判断することになる。

②介入

実験・調査において、人の生理・心理・行動等に影響する様々な要因の有無、または程度を制御・操作する行為をいう。

(4) 研究対象者

人を対象とする人間工学研究において研究を実施される者、研究を実施されることを求められた者。具体的には、研究に用いる人由来情報（例えば、操作・行動、主観的評価、生体電気信号、人体寸法、ライフログ等）、あるいは人由来試料（例えば、唾液、尿、血液等）を提供する者をいう。研究対象者には個人、特定集団、不特定集団が含まれる。

(5) 代諾者

人間工学研究への参加について、研究対象者に十分な同意の能力がない場合に、研究対象者とともに、または研究対象者に代わって同意することが正当と認められる者をいう。具体的には、研究対象者の親権を有する者、配偶者、後見人、その他これに準じる者で、生活の実質等から見て研究対象者の最善の利益を図りうる者である。

(6) 研究実施者

人間工学研究に携わる関係者および人間工学研究で取得したデータや試料の解析、管理等に携わる者をいう。研究実施者に既存の試料やデータ等の提供のみを行う者を除く。

(7) 研究責任者

人間工学研究の計画立案や実施に関して責任を負い、その研究に係る業務を統括、監督する者をいう。

(8) 研究実施機関

人間工学研究を実施する企業、評価団体、研究機関、大学等における研究組織あるいは機関をいう。研究実施者に対してデータ（新規取得、取得済みとも）等の提供のみを行う者の所属する機関を除く。

(9) 研究実施機関の長

人間工学研究を実施する研究組織や機関等の代表者であり、人間工学研究実施の諾否についての最終責任を持つ者をいう。

(10) 共同研究実施機関

研究計画書に記載された人間工学研究を共同して行う組織あるいは機関等をいう。

(11) 倫理審査委員会

研究実施の適否その他研究に関して必要な事項について、科学的観点にも配慮しながら、研究対象者の個人の尊厳および人権の尊重、安全、その他の倫理的観点から調査、審議し、助言するための合議制の機関をいう。名称にはこだわらず、前記の機能を有した機関が該当する。

(12) 迅速審査

倫理審査委員会が指名した委員による審査を行い、当該審査結果を倫理審査委員会の意見として扱う審査方式のことをいう。

(13) 人由来試料

人の身体から採取した血液、組織、細胞、呼気、汗、唾液、排泄物等、並びにそれらから抽出した核酸、タンパク質等をいう。

(14) 人由来情報

人由来試料以外の、人から収集した情報で、行動・主観・生体反応（顔表情等の画像データ、モーションデータ、音声データ等も含む）、人体寸法、ライフログ等をいう。

(15) 個人情報

生存する個人に関する情報であって、以下のいずれかに該当するものをいう。詳しくは個人情報保護法を参照すること。

①当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができるもの（他の情報と容易に照合することができ、それにより特定の個人を識別することができることとなるものを含む）。

②個人識別符号が含まれるもの（顔、声紋、指紋、歩容等）

③個人情報の中でも特に、人種、信条、社会的身分、病歴等、特に慎重な扱いを求められる個人情報を、「要配慮個人情報」という。

(16) 匿名化された情報

個人情報の全部または一部を取り除くこと、あるいは個人情報の全部または一部を取り除き、代わりに研究対象者と関わりのない符号または番号を付与することによって、特定の個人を識別できないようにした情報をいう。必要な場合に個人を識別できるようにその人と新たに付された符号または番号の対応表を残す方法と、対応表を残さない方法がある。

(17) インフォームド・コンセント

研究対象者となることを求められた人が、研究参加の諾否を決定するために研究実施者等から説明を受け、研究対象者となることや研究で得られたデータ、試料、個人情報等の取扱いに関して同意を与えること。

(18) インフォームド・アセント

インフォームド・コンセントを与える手続きにおいて、その能力を欠くと客観的に判断される研究対象者（子ども、認知症者等）が、研究に関し、理解力に応じた分かりやすい言葉で説明を受け、研究の実施・継続に理解と賛意を表すること。

(19) リスク

人間工学研究の実施に伴って、実際に生じるか否かが不確定な危害の可能性を指す。その危害としては、説明・同意取得、研究の実施、成果公表時における、身体的・精神的・経済的・社会的な危害が考えられる。

(20) 利益

研究から得られる成果や期待される恩恵を指す。社会的および学術的な価値という無形の利益や、研究が実施されることによって当該研究対象者個人に還元される恩恵がある。

(21) 最小限のリスク

日常生活や日常的な健康診断で被る身体的、心理的、社会的、経済的、法律的なリスクの可能性の限度を超えない程度であって、社会的に許容される種類のもの。

(22) 偶発的所見

研究の主目的からは外れている、研究の実施過程で偶然に発見される所見で、研究対象者の健康面等に関するもの（色覚異常、認知症スクリーニング検査での MCI、不整脈、てんかん性の脳波、脳 MRI 画像等）をいう。

(23) 利益相反

研究にバイアスをもたらす可能性のある利害関係のこと。

(24) トレーサビリティ

追証可能なようにデータおよび解析手順の記録を残しておくこと。

1.3 適用範囲

(1) 本指針は、「人を対象とする人間工学研究」を実施する際に適用される。医学系研究に該当する場合は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に則って実施する。なお、医学系研究に該当する研究は、以下の項目で { (a) or (b) } and (c) に合致するものである。

(a) 傷病の成因の理解や病態の理解を扱うもの。

(b) 傷病の予防や、医療における診断方法および治療方法の、改善または有効性検証を扱うもの。

(c) 国民の健康保持増進、または患者の疾病からの回復や生活の質の向上を目的とするもの。

(2) 本指針は、研究の事前検討を目的として計測等を実施する際には適用しない。

(3) 本指針は、大学等における人間工学関連の授業、演習、実習等の教育実施の過程において、受講者を対象に教育の一環として行われるデータ等の収集には適用しない。

(4) 本指針は、企業の通常業務としての専門社員や専門評価者等を用いた製品や環境、サービスの品質評価業務には適用しない。

(5) 前記(2)～(4)は本指針の適用範囲外であっても、人権や個人情報の保護、安全の確保は、他の規程や指針、手順書等に則って実施されることが必須である。また、教育や業務の一環として取得するデータや試料を研究論文、講演、商業誌、社内技報等で公表する可能性がある場合は、本指針を遵守して人間工学研究を実施することが必要である。

第2章 研究実施者等が遵守すべき基本的な手続き

2.1 倫理的妥当性等の確保

人間工学研究実施者は、人間工学研究を計画、実施するにあたって次の事項を遵守する。

(1) 人間工学研究の内容は、社会的、科学的に十分認められ、かつ研究対象者の尊厳および人権を尊重するとともに、安全の確保に配慮する。

(2) 人間工学研究を実施するにあたっては、原則として、その研究計画が研究開始前に倫理審査委員会で審議され、所属機関の長等の承認を得ている必要がある。研究計画を変更する場合も同様である。

(3) 人間工学研究の計画、実施にあたっては倫理面に十分配慮しつつ、研究に必要な情報を事前に精査し、これらを反映させた明確かつ具体的な研究計画を作成する。

(4) 研究対象者、研究実施者以外の一般人に影響する人間工学研究、公共の生活環境等に影響を及ぼすおそれのある人間工学研究を計画、実施する場合には、一般人の活動や生活環境等を阻害せぬよう十分に配慮する。

(5) 研究実施者は、研究責任者の指導の下、トレーサビリティを担保できるようにデータや記録を残す。

2. 2 個人情報保護

個人情報保護法に基づき、研究対象者に係るデータや情報等を適切に取り扱い、その個人情報を保護する。人間工学研究を通して知り得た個人情報を正当な理由なく第三者に漏洩してはならない。研究実施者がその職を退いた後も同様とする。なお、個人情報に該当しないと思われるデータでも、特異傾向データ（例えば、年齢 116 歳等）のように容易に個人を特定できるデータや、幾つかのデータや属性の組み合わせによって個人を同定できる場合は、匿名化された情報であっても個人情報となる場合があるので留意が必要である。

2. 3 インフォームド・コンセントの受領

人間工学研究を実施する場合には、事前に、研究対象者からインフォームド・コンセントを受けることを原則とする。取得方法は以下の通りである。

- (a) 文書で取得する。
- (b) 口頭説明を行い、その記録を研究実施者が作成する。
- (c) オプトアウト式で実施する（拒否する機会を設ける）。

① 侵襲を伴う場合

- (a) を必須とする。

② 侵襲を伴わず、介入を伴う場合

- (a) または (b) とする。

③ 侵襲を伴わず、介入も伴わない場合（人由来試料の場合）

- (a) または (b) とする。

④ 侵襲を伴わず、介入も伴わない場合（人由来情報の場合）

- (a) または (b) または (c) とする。

研究対象者に対する説明の内容、同意の確認方法その他のインフォームド・コンセントやインフォームド・アセントの手續に関する事項を事前に決めておく。インフォームド・アセントについては、必要に応じて実施することを本指針では推奨する。

2. 4 成果の公表

人間工学研究の成果を公表する場合には、研究対象者の個人情報やプライバシー等の保護に必要な措置を講じる。

第3章 研究計画の管理および承認の体制と責務

3.1 研究管理の体制

人間工学研究の適正な管理については、研究責任者および研究実施機関の長等が行う。研究実施機関の長は、人間工学研究実施の諾否に必要な情報を得るため、研究倫理審査委員会を組織し、この委員会に研究計画の審議を依頼する。

3.2 研究責任者の責務等

研究責任者の基本的な責務は次の通りである。

(1) 人間工学研究を実施または継続するにあたり、研究計画に対して倫理審査委員会の審査を経て研究実施機関の長の許可を受ける。

(2) 研究責任者は倫理審査の受審の要否について判断を迷うときには、倫理審査委員会に打診する。

(3) 研究参加によって最小限のリスクを超えることが予測される場合には、潜在的な利益とリスクの関係を十分に精査する。このような研究を計画することについての合理的な理由（例えば、潜在的な利益の大きさ等）やリスク低減のための妥当な方策が必要である。

(4) 偶発的所見が得られることが想定される場合、研究責任者は研究対象者への説明方法と対応方法を事前に決めておき、研究計画書、およびインフォームド・コンセント受領の説明内容に反映する。偶発的所見の告知を希望するかどうかは知る権利・知らない権利の観点から研究対象者の意思に委ねるべきである。医師ではない者が研究責任者となる場合、診断行為をしてはならないので診断ではないことを明示する等、説明・対応には深く注意することが必須であり、対応方法は例えば病院での受診を薦めるようなものがありえる。また、研究の実施過程だけでなく、研究対象者としての適格性チェック過程（すなわちスクリーニング）での偶発的所見についても適切に対応することが必要である。

(5) 研究計画の作成では、潜在的な利益とリスクの総合評価に必要となる情報を明示することが必須である。すなわち、当該研究の目的・意義、実施期間、作業内容、研究実施に伴うリスクや安全確保の方法、研究対象者に対する説明内容、偶発的所見に対する説明・対応方法、インフォームド・コンセントの手続き、研究参加に伴う補償の有無、成果公表の方法、利益相反に関する情報等を記載する。

(6) 人間工学研究の実施にあたり、研究対象者の人権や個人情報の保護、安全性の確保のために必要な措置を講じ、監督する。また、人間工学研究を終了するまでの間、リスクの予測や安全確保に必要な情報を把握しておく。また、個人情報の安全管理が図られるよう、研究実施者等に対して必要かつ適切な指導を行う。

(7) 研究実施機関の長に対し、当該研究の倫理審査に必要な情報を提供する。他の研究実施機関と共同で人間工学研究を実施する場合には、その機関の研究実施者に対して同様の情報を提供する。

(8) 想定外の事象により潜在的な利益よりも起こりうるリスクが大きいと判断された場合には、研究実施機関の長へ報告し、適宜指示を受ける。

(9) 重篤な事故が発生した場合には、人命を第一として速やかに必要な措置を講じる。その上で研究実施機関の長等へ報告し、適宜指示を受ける。

(10) 当初の計画を完了する以前に十分な成果が得られ目標が達成された場合、あるいは研究実施期間が満了した場合には、遅滞なく、その旨を研究実施機関の長等へ報告する。

(11) 研究責任者は、研究実施者に対し、研究の倫理的配慮に関して教育・指導を行う。第2章に挙げた事項やその他必要な事項を遵守して研究を実施するよう指導および監督する。

(12) 研究責任者は、トレーサビリティを担保するために適正なデータ管理・保管を行うとともに、研究実施者に対しても指導する。

3.3 研究実施機関の長等の責務

3.3.1 倫理的配慮の周知

当該研究実施機関における人間工学研究が倫理的、法的または社会的問題を引き起こすことがないように、研究責任者や研究実施者等に対し、研究対象者の尊厳および人権を尊重するとともに、安全の確保や個人情報の保護のために必要な措置を講じる必要があることを周知徹底する。

3.3.2 倫理審査委員会の設置

研究計画の適否の審査や、その他研究に関して必要な事項の審査を行うための倫理審査委員会を設置する。大学、共同研究機関、公益法人、学会等に設置された外部の倫理審査委員会に審査を依頼することもできる。

3.3.3 倫理審査委員会への付議

研究責任者等から3.2(1)の事項により許可を求められたときは、倫理審査委員会に諮問する。

ただし、倫理審査委員会からあらかじめ指名された者が、当該研究計画について倫理審査委員会の審査不要と判断した場合にはこの限りではない。この場合、原則として当該研究計画は次に掲げるいずれかの場合となる。

①匿名化された情報・データを用いる研究。

②個人が特定されない方法（無記名等）によるデータ収集で、個人情報を取り扱わないもの。

③大学等での授業、演習、実習、卒業研究等の教育の一環として学内でデータを収集し、研究対象者の不利益が生じないように講じられたものであり、データや結果を学内のみで使用するもの。

④例えばセンサーや画像処理アルゴリズムの研究のように、人を対象とする研究ではあるが、研究責任者や研究実施者のみを対象にした研究。

⑤他の研究実施機関との共同研究において、主たる研究機関においてすでに審査を受け承認された研究。

⑥研究計画立案のために実験条件を検討するための予備実験であり、研究者自らのデータを用いて検討するもの。

3. 3. 4 人間工学研究の許可等

倫理審査委員会の意見を尊重し、研究計画の許可または不許可その他人間工学研究に関し必要な事項を決定する。研究実施機関の長は、倫理審査委員会が不承認の意見を述べた研究の実施を許可してはならない。

3. 3. 5 事故等発生時の対応体制の整備

必要に応じて、あらかじめ、事故等が発生した場合の対応の体制や手順を整備する。また、研究責任者や研究実施者等にこれらの体制や手順を周知し、遵守するよう適切な監督を行う。

3. 3. 6 個人情報保護のための体制整備

研究関連の個人情報の保護に必要な体制を整備する。

3. 4 倫理審査委員会

3. 4. 1 倫理審査委員会の責務および構成

(1) 倫理審査委員会は、研究実施機関の長からの要請に応じ、個々の人間工学研究計画を倫理的観点、科学的観点、潜在的な利益とリスクの総合評価の観点から審査し、内容等についての意見を述べ、適正かつ円滑に研究を実施できるよう研究計画改善のために助言する。その他、人間工学研究の倫理的内容に関して意見を求められた場合も同様である。

(2) 倫理審査委員会は、機関や組織内部の考え方だけでなく、多元的な視点から公正かつ中立的な審査を行えるよう、種々の立場の委員によって適切に構成する。人間工学の有識者、法律や倫理の専門家等人文・社会科学分野の有識者、および一般の立場を代表する者から構成されること、男女両性で構成されること、機関や組織の外部の者が含まれることが望ましい。

(3) 倫理審査委員会の委員は、職務上知り得た情報を、正当な理由なく漏洩してはならない。その職を退いた後も同様とする。

3. 4. 2 倫理審査委員会の運営

(1) 審査対象となる研究計画に関係する委員は、当該研究計画の審査に関与してはならない。ただし、倫理審査委員会の求めに応じてその会議に出席し、説明することは可能とする。

(2) 倫理審査委員会の運営に関する規則、委員の氏名、委員の構成および議事要旨は原則として公開されることが望ましい。ただし、議事要旨のうち研究対象者の人権、研究等の独創性または知的財産権の保護等のため非公開とすることが必要な部分についてはこの限りでない。

(3) 倫理審査委員会は、軽微な事項の審査について、指名された委員による迅速審査に付すことができる。迅速審査の結果は、すべての委員に報告される必要がある。迅速審査に委ねることができる事項は以下の通りである。

① 研究計画の軽微な変更の審査。なお、研究対象者の負担が軽減される方向の変更であれば、原則として、迅速審査は不要で届出のみで良い。

② 共同研究で、既に主たる研究実施機関において倫理審査委員会の承認を受けた研究計画であり、その一部または全部を他の研究実施機関が実施する場合の研究計画の審査。

③ 侵襲も介入も伴わない研究計画の審査。

④ 研究対象者等に対して最小限のリスクを超えない研究計画の審査。

3. 5 研究倫理教育

研究実施者、研究責任者、研究実施機関の長、倫理審査委員会等、人間工学研究の実施や審査に関わる者は、研究や審査に先立ち、人間工学研究に関わる倫理教育・研修を受講する。また、倫理的配慮についての最新の知識を保有するために、継続的に倫理教育・研修を受講する。